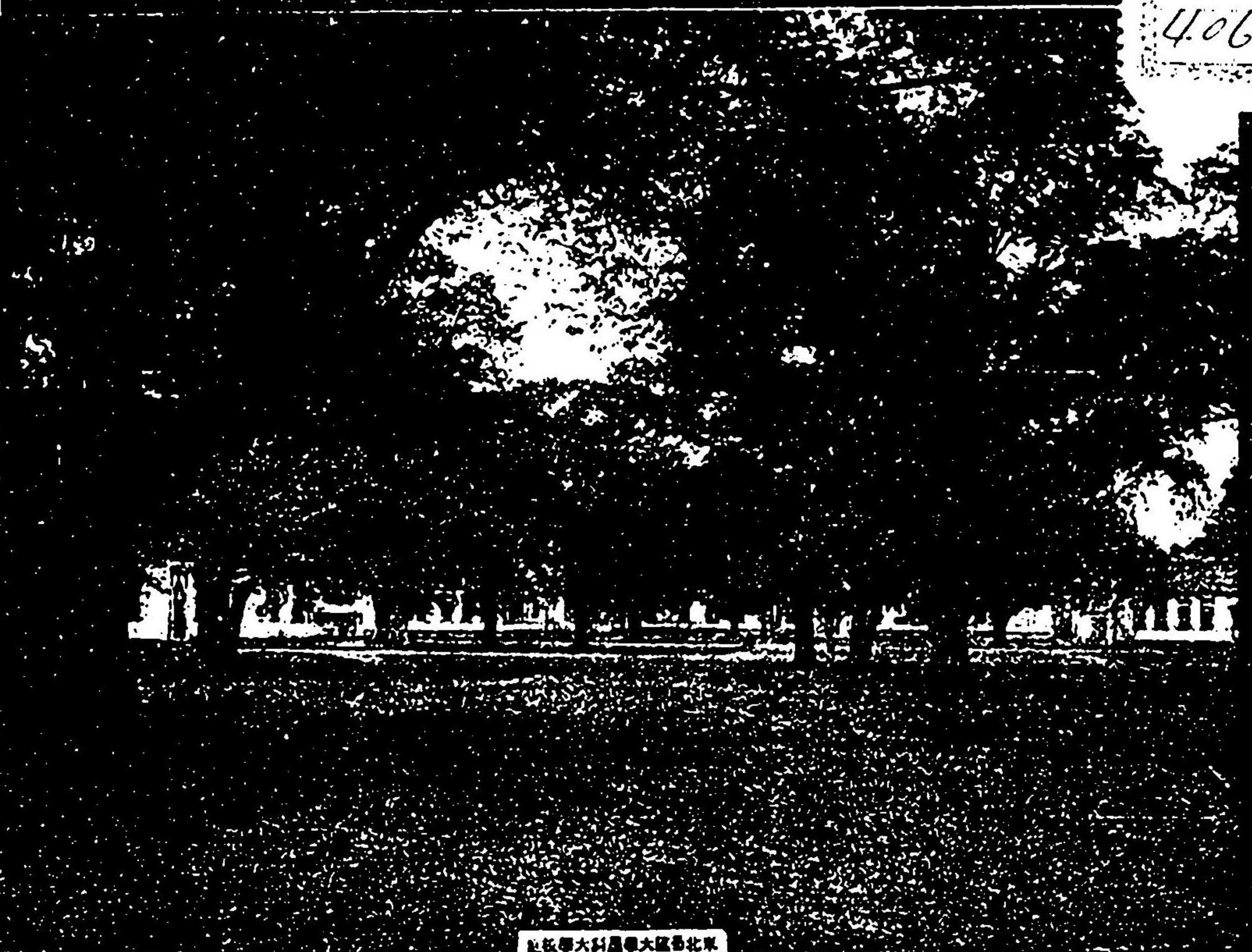


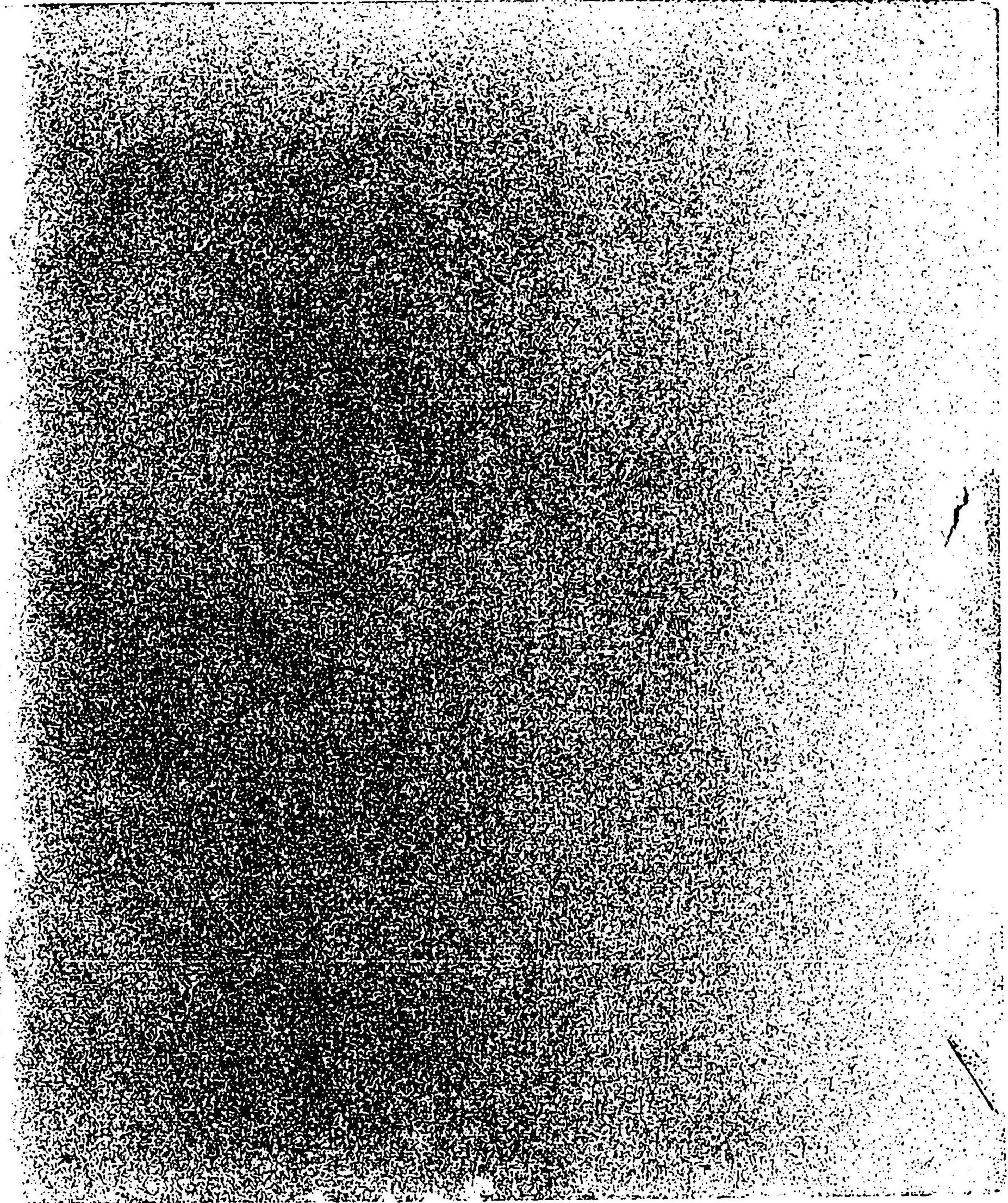
327
406

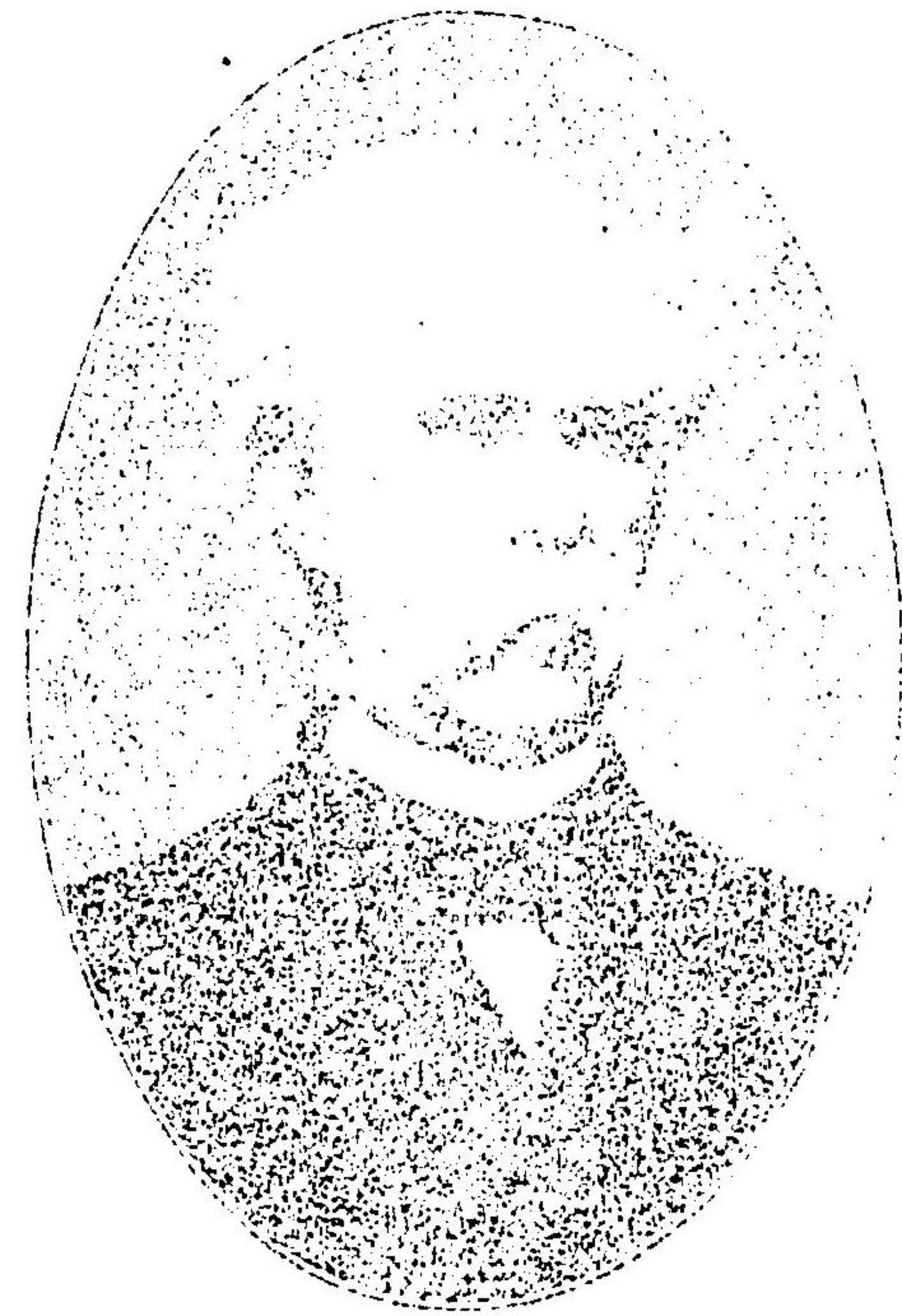


札幌医科大学図書蔵

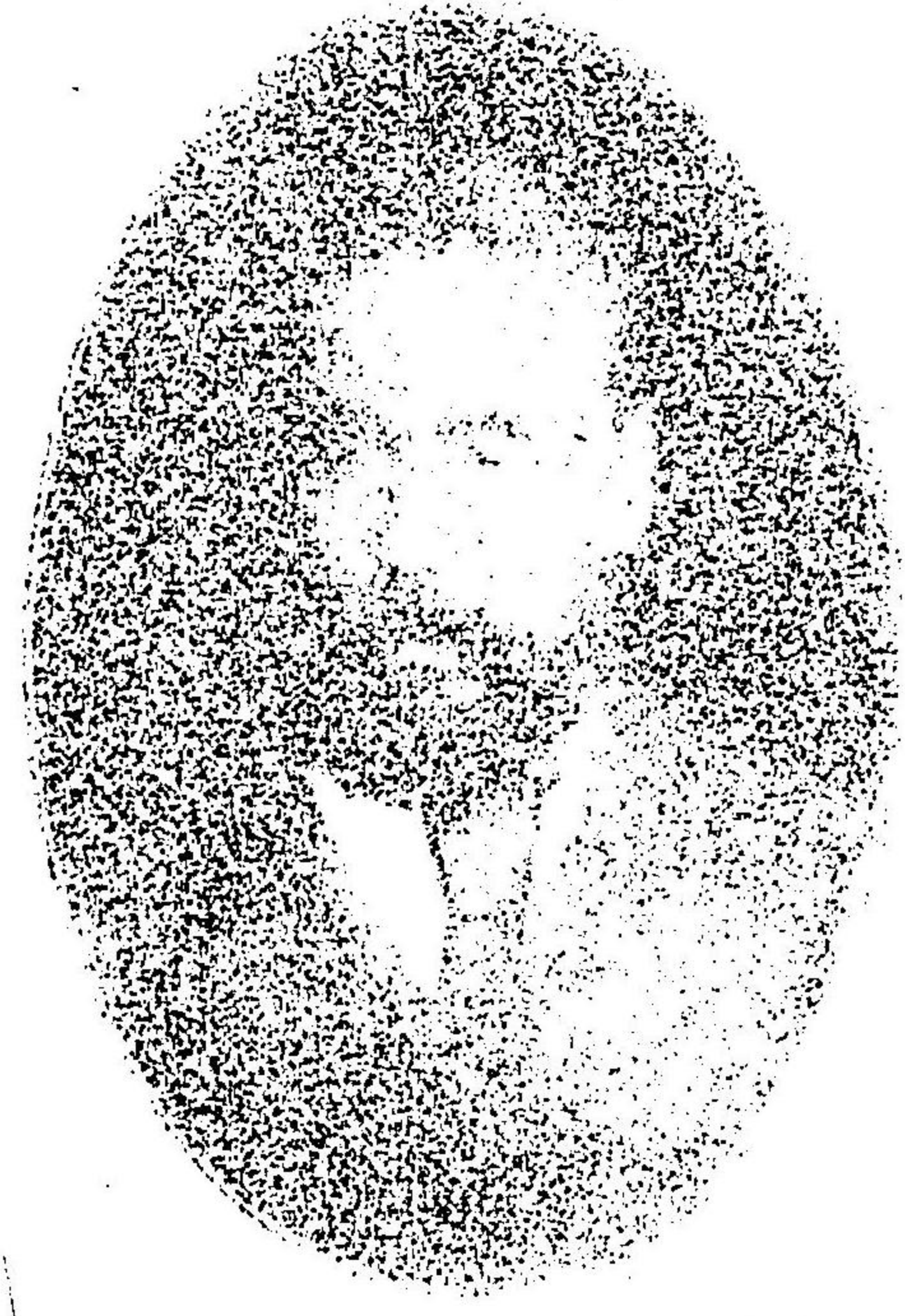
幌札の今現

札幌市立図書館蔵





故黒田伯米人ケンロン氏



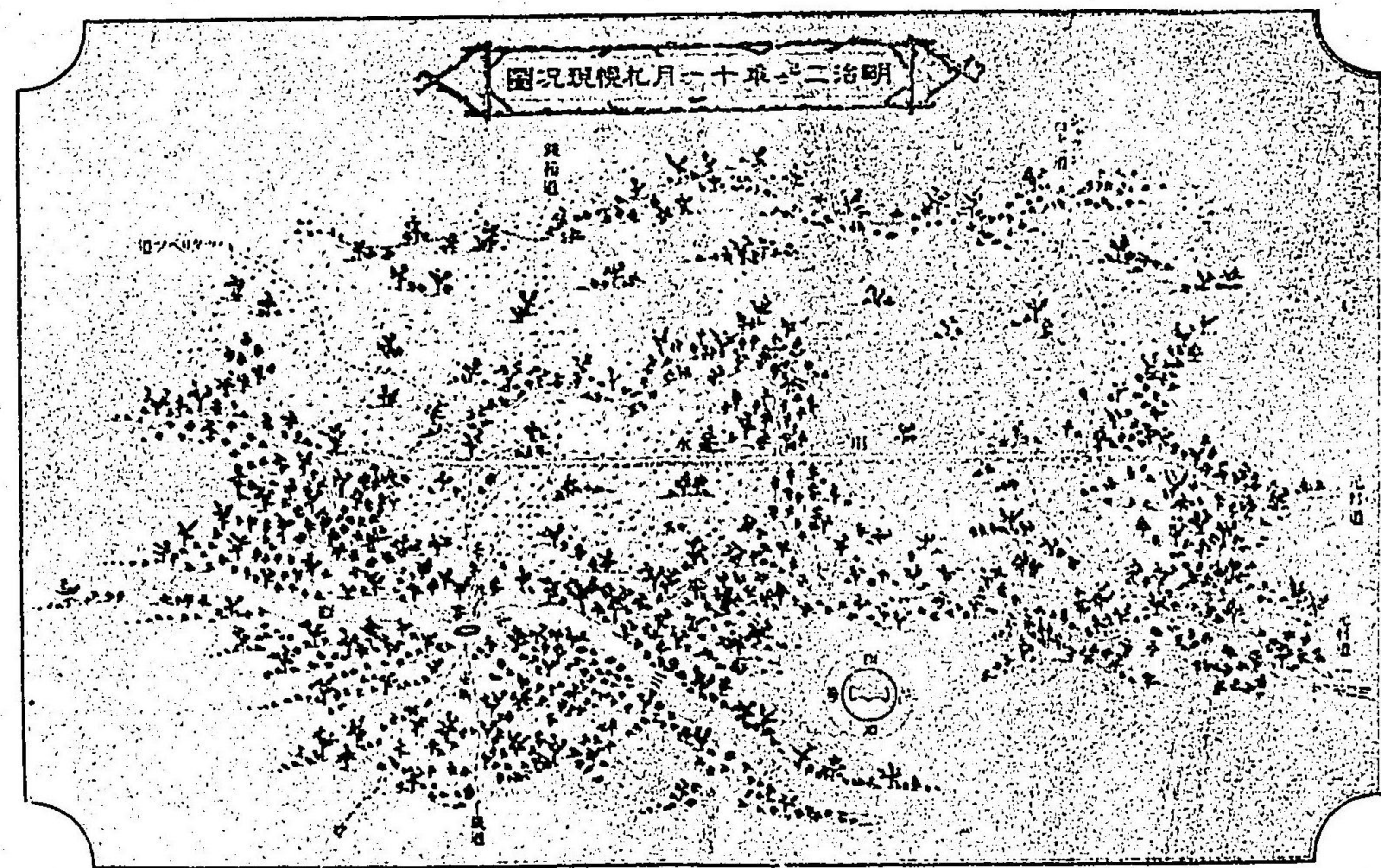
故...

幌札の今現

(次 目)

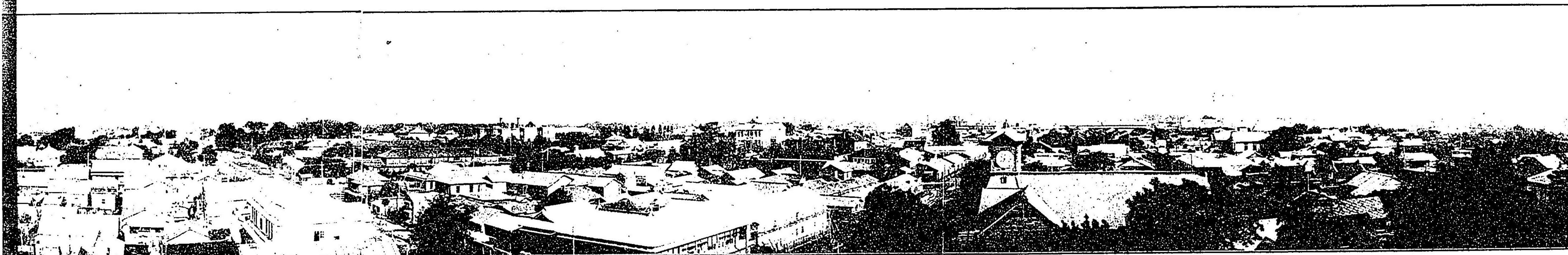
口繪	故黒田伯米人ケンロン氏	三〇
勝	地	三〇
○	步兵第二十五聯隊	二九
○	新聞雜誌	二六
○	病院其他	二七
○	社會及教會	二六
○	會社及工場	二三
○	銀行	二三
○	商業機關	二三
○	試驗場と陳列場	二二
○	諸團體	二〇
○	教育機關	一九
○	學校	一四
○	官公衙	一八
○	氣候風俗	一四
○	地理沿革	一

明 治 二 年 札 幌



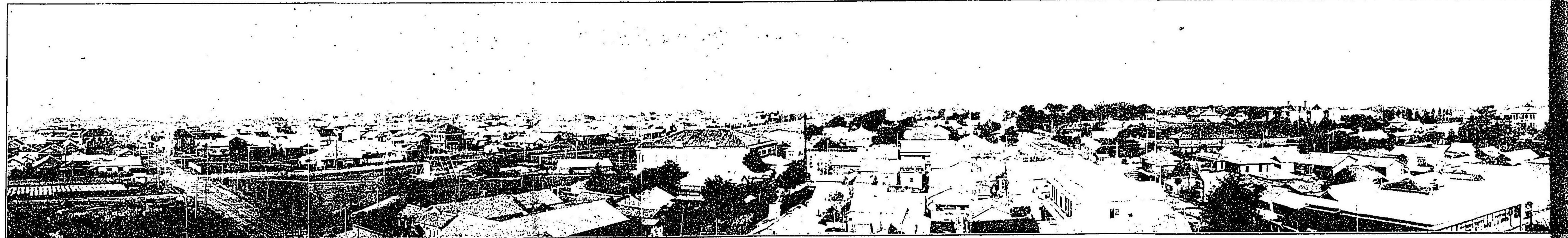
幌 札 の 今 現

The Present Sapporo.

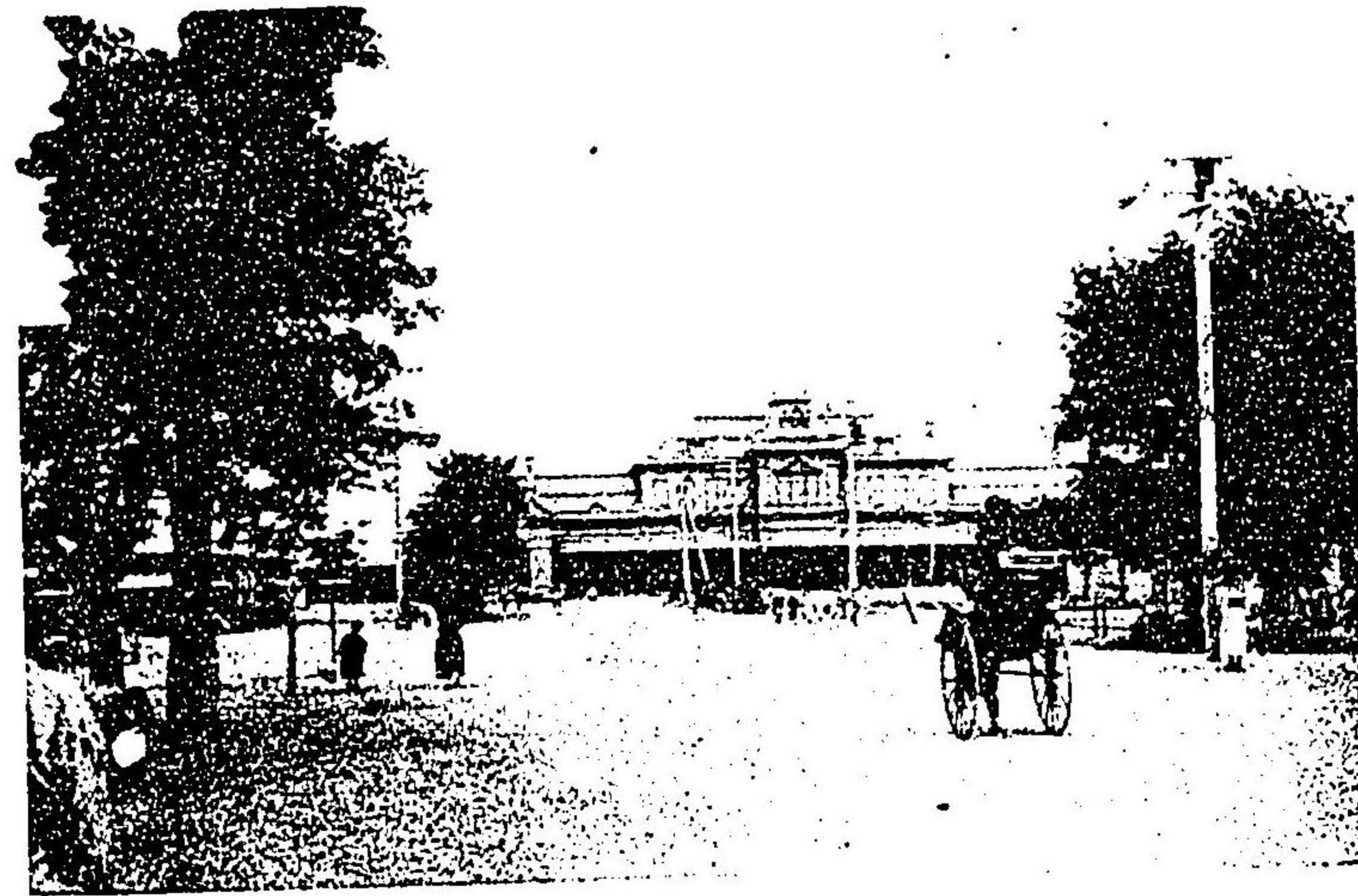


幌 札 の 今 現

The Present Sapporo.



327-406



札幌の札幌
昭和三年

札幌

本道西海岸の要港小樽を後にせし汽車は、断崖絶壁の下、碧波萬里の湖風に送らるゝこと凡そ一時有半、輒ち北海の首都札幌驛に入りぬ。侮る勿れや、此處にも亦かゝる大都府のあらむかなど。一瞥際涯を知り得ぬ石狩原野の只中に、手稻藻岩の山々を唯一の目あてとして、榛莽荆棘の間を來往せし昔の態は夢の跡。纔に、区内處々より掘出せらるゝ石器土器を觀じては、往古嘗て人間の棲家を茲に求めしを察し、博物館域内が堅穴の跡にアイヌ人種の居住せしを偲び、又安政三年幕府の足輕龜谷丑太郎の從僕吉田茂八と呼べるが、居を豊平川の西岸に卜して、狩獵になりはひを定めしを聞き、さては是れ、和人移住の嚆矢なりしかと知るのみ。

富貴堂書房編輯部編纂

44. 1. 16

馬こや、し花さきつゝく草の原

今朝まだ路まぬ露の涼しさ

大和田建樹

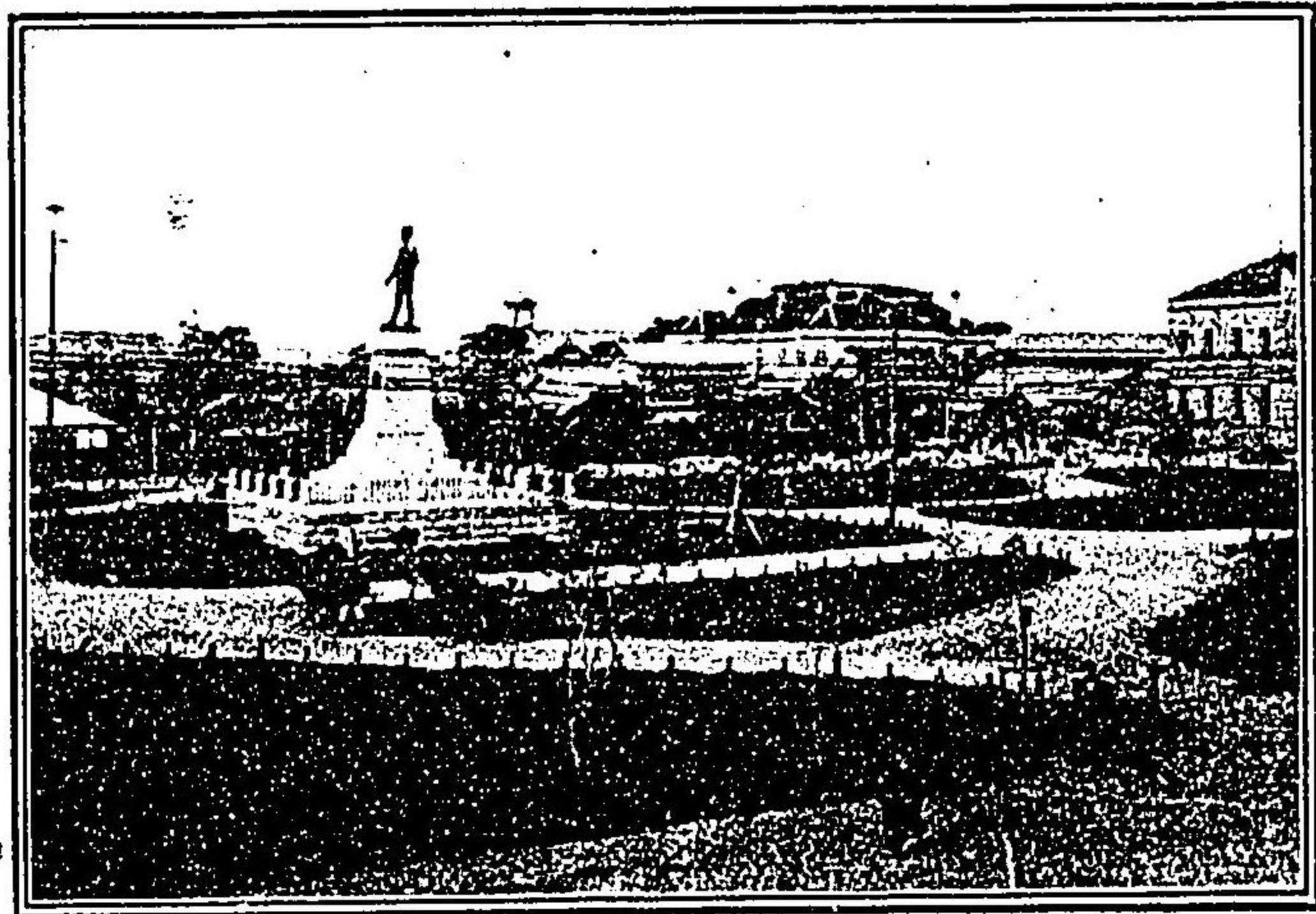
抑も語らむ、聊かその沿革を。明治を遡る僅に數星霜以前は、轉た蕭條寂寥、中夜銀星の閃くを算へて、遙に狼狐の叫喚もや聞きつらむ。ざるを明治元年春三月蝦夷地開拓の詔勅を下りける。尋で明くる二年、開拓使の設けありて、判官島義勇氏地を此處に相し、官邸を西創成に建て、市區を豫定し、稱して本府と云ふ。其規模實に壯且大、流石にもとおもはれぬ。三年島氏往きて、判官岩村通俊氏其後を襲ふや、銳意交通を圖り、榛棘を排して道途を通じ、翌四年市街地を區劃して商賈を移す。懇めてそが奨勵を期し、十箇年賦完済の特遇を設けて一戸に百圓を貸與し、二百十一戸を得たりぬ。此年四月東久世長官函館より來りて此に遷る。黒田清隆氏實にその次官たり。五年大に土工を興し、開拓使本廳を始めとし、多くの邸宅を建設しければ、集り來る者漸く繁く、忽ち五百五十餘戸千五百餘人を數ふに至りぬ。されど翌六年は廳宅既に竣工し、工夫なんどの解雇せられし者もなかくにて、剩へ七年二月樽前山噴火して、灰を降らすなどの變事ありければ、逃げ散る者相踵ぎ、市況一朝にして相衰へ、又何れの代にか恢復せんのを現せんとす。會々黒田氏開拓長官に進み、判官板本十郎氏札幌本廳の擔任となり、一意専心、力を住民の慰撫に用ひたり。即ち鑿に貸與せし毎戸百圓の資金中、八十圓を義捐して之を下附する等、専ら保護の籌策を運しければ、市民の歸來するもの次第に多く、越えて八年琴似屯田を、九年山鼻屯田を移し、市區漸く發達の趨勢を齎し來ぬ。殊に十四年、聖上陛下巡狩の事あり。蹕を豊平館に駐めさせ給ひ、親しく拓殖の状況を叙覽し給ふ。廼ち齡八十を越ゆる者には、特に金品を賜ひ、札幌神社を祀り、西南戦死者の招魂社に御下賜金あるなど、庶民益々皇化に浴せり。かくて十五年開拓使廳廢せられて札幌縣を置かれ、十九年廢縣と共に北海道廳の設置を見る。規模頓に張り、

大に拓地殖民に努め、官營事業を民間に移して、商工業の作振を圖るなど、着々施設する所ありしをもて、年々移民の増進すること平均三百戸内外、二十五年の北海道物産共進會が、普く本道物産の紹介を爲すや、四方の望愈々此處に蒐らんとす。過ぐれば三十年、第七師團軍營の設置あり、(後旭川に移す)市況の殷昌や、需めすといはんもいかでか得べき。爾來三十二年には區劃を施きて、自治の基を定め、三十四年北海道會の開設に次いで、三十五年愈々代議士を選出す。三十九年には商業會議所の設立をも得、函館の形況々乎としてそれはた收むるなからんか。抑々我が札幌や、廣袤東西に狭く、南北に長し、前者は漸く三十三町餘に過ぎざるも、後者は實に二里三十町に亘り、周圍優に八里に垂んとす、位置を東經百四十一度二十一分、北緯四十三度四分に占め、藻岩手稻の諸山、綿々として西端を遮るの外、三方悉く曠野に接し、東南に豊平の清流蜿蜒たり。

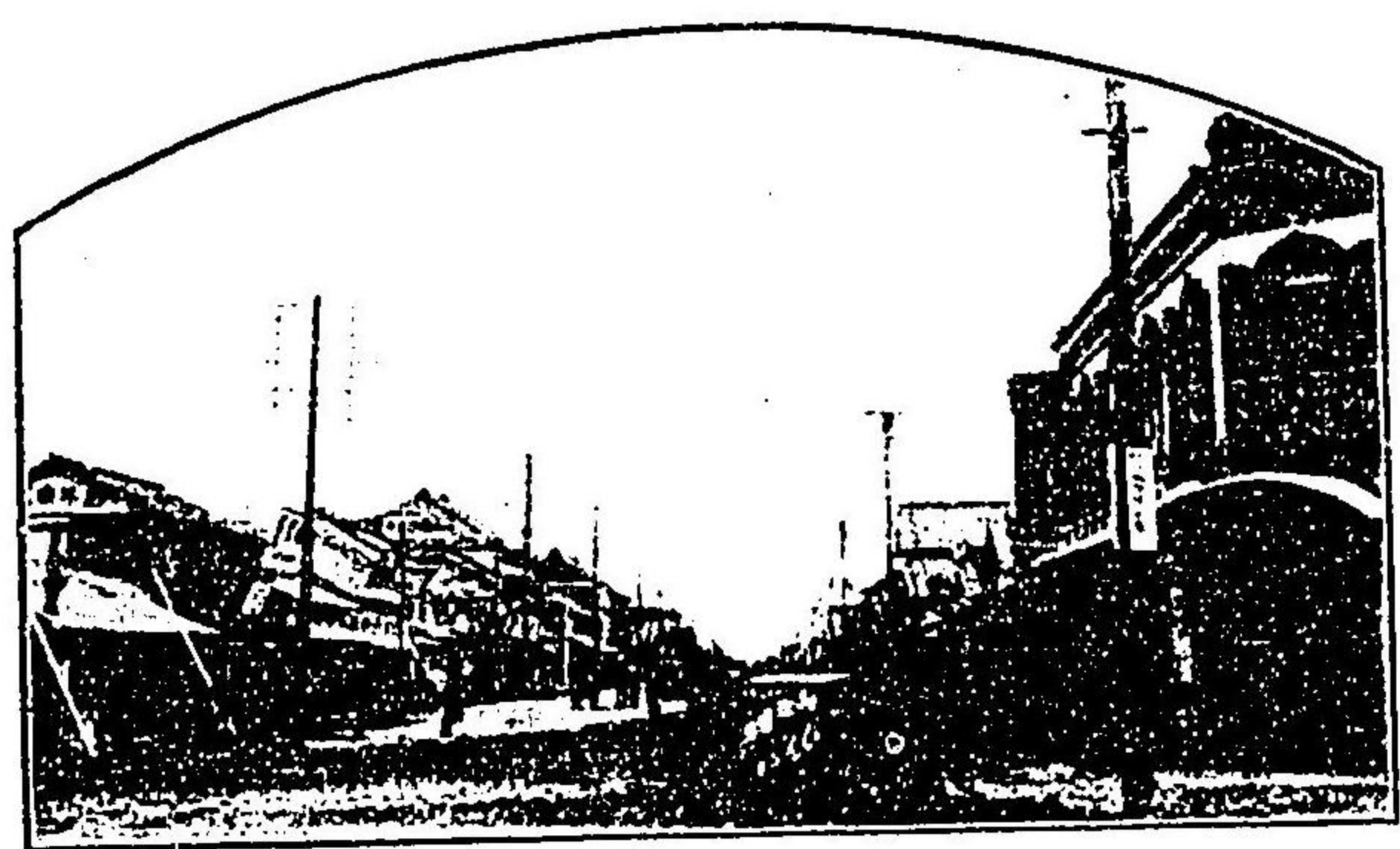
しらゆきの中を一筋ながれゆく

とよひら川の水の寒けさ 大和田建樹

街衢井然、恰も基盤の目の如く、其平坦なる砥の礪も遅し。市の中央東西に貫く一帯の空地を火防線となし之を大通と稱して市街を南北に兩分す。之に交叉して南北に流るゝ川あり、創成川といふ。又之に依て市區を東西に區劃せり。市の町名は、大通を基線として、南は一條より七條に、北は又一條より十五條に至り、更に創成川を基とし東西に數へて、東は一丁目より六



札幌大通の景



丁目に、西は同じく二丁目より二十丁目に至る。各條各丁何れも六十間を以て限り、方形三千六百坪にして一畝を成す。戸數一萬一千二百九十五、人口七萬七十五人（明治四十一年末現在）大通以北は官街工場等多く、以南は商家最も多し。而して其目抜の要巷を南一條通と爲し、夜間雜圍の境を狸小路と稱す。



道遙獨出郭門行。觸目無端客感生。臥嶽山容清冽水。依稀風景似西京。

巖谷 一六

雪の風景

札幌の地、固より烟波浩蕩の濱を距る五六里の域に在れば、海濱のその如く、四時調和の氣溫稍々缺く處ありと雖も、猶、全年の平均溫度は華氏四十度餘にして、東京に比し低きこと二十度夏季三箇月の平均氣溫は六十五度を呈し、暖、巴里、伯林に勝り、冬季三箇月の平均は四十度に

して、北米市俄古に伯仲す。其最も低きに至ては、氷點下十三四度を示すありとも、并は極寒僅に數日に出不す。若し夫れ、秋葉既に落ちて、霜蓋踏んで漸く寒きを知れば、蕪若手稻の山頭、早くも皚雪を漲らし。曆は已に十月の下旬を示す。菊花の盛に香を放ち、萬戸の冬支度何れも成る。來れり、來れり、幌都の冬は、六花颯々、落花の如く、風のまにまに都門を封す。聽て十二月の初めとなれば、萬目皚々、氷雪道を填めて、所謂根雪となる。都人の俾ならぬ楳を熨ふて往來する態却て興あり。

雪の上を楳ひく馬の影ばかり
ゆふぐれ黒し札幌のさと

大和田建樹

誰か言ふ、札幌の冬は長しと。春もやうく深くなり、豊平川の増水は、端なくも四邊の人を驚かすに至れば、市街の雪は、大方融け散す。蓋し三月の下旬、四月の上旬とす。聽て五月の初となれば、倏ち起る、觀櫻會の集圍、圓山社裡に向つて突貫す。即ち櫻花の破綻期なればなり。桃梅李花亦一時に花開き、輕風吹き送つて、滿都宛ら芳苑の如し。以て春季溫度上昇の速かなるを察すべし。唯怖る、是より南風漸く強く、捲土頻來、甚だ市人を惱すを。

かくて夏の期に入る。市樹到る處老樹古木多く、土地廣濶にして肥えたれば、街路樹を植うる處多し。殊に停車場通を最となす。薰風一陣會々砂を捲いて去らんとするも、樹枝徐に遮りて之を拂へば、烟塵漸く拭はれて、涼氣自ら軒門に懸



停車場の線



創成川の流上

る。蓋し炎夏三伏の熱を拂ふに足るべし。是時豊平川に水泳を試むるも善く、汽車を驅つて銭函に海水浴を企つるも亦、なか／＼なり。なほ緑樹陰濃かなる夕、新月の光を浴びて、豊平川畔に清冽の水碧を掬ふも面白し。街路の樹は、ホワイト、クロバー、榆など尤も多く、自ら大陸的新開地の現象を示す。併もなほ暑しといへりとして、日天に中する頃にして、朝夕は涼氣身に適し、甚だ人心を爽快にす

爲に府縣人士の一度札幌に避暑するあらんかの大槪その快



(6)

を忘却し得ざる所以なり。

なる神のとどろき渡る雲晴れて

夕日かやく豊平の橋 結城 國足

山林溪澤偉人を生むこと多しとか、由來人心の修

練は山水自然の容趣に關するや切なり。夫れ札幌は

地廣大にして水清く、區劃整正、街路坦潤、喬木茂

樹處々に緑を吹いて、街氣常に清淨を有ち自ら雄大

の形象を放てり。天地の風光、豈、多少の感化を住民に致さずといふべけんや。敦朴の裡、進取の銳氣を帶ぶといふ者また理なきにあらず。況や肩量肩狹ならずといふに於てをや。尙夫れ、本道の首府にして官吏あり、學者あり、商賈、工匠農藝家等亦少からず、各種職業の人相混じ、其風俗相調和して頗る宜しきを得たり。之を函館小樽の如き、商業に偏して單調なるに比すれば大に勝る所あるを觀る。故に風俗和順にして言語應對大概溫雅閑雅なり。

尙且、言ふべきあり。開拓使の當地を開拓するに當て、數多の米國人を招聘して其施設の任に與からしめられたれば、諸事米國的大陸風を加味すること多く、日常觸目の家屋の建築より家具農器に至るまで、大方然らざるはなく、穀菜果實の如きに及んでは、外國種其多きに居るといふも過言にあらざる也、又基督教の如きも米人の感化に因り、上下を通じて比較的弘く行はれ、日照日に市中を徜徉すれば、店頭「日照日休業」の標札を掲ぐるものあるを見る。

それ然り、されば則ち、過去四十年以來府縣より移住し來り、各々其郷里固有の風俗を齎し居たれば、頭初甚だ雜駁たりしものも、漸次融和陶冶せられて、遂に今日の如き一種雅良の習俗を渾成し、彼の都市に免れ難き、淫猥荒惰の惡風は、比較的係を留めざるなり。嗚呼亦乾坤無意の賜か、先覺有意の働か。

札幌の傍の一

河野犀川

東橋秋月

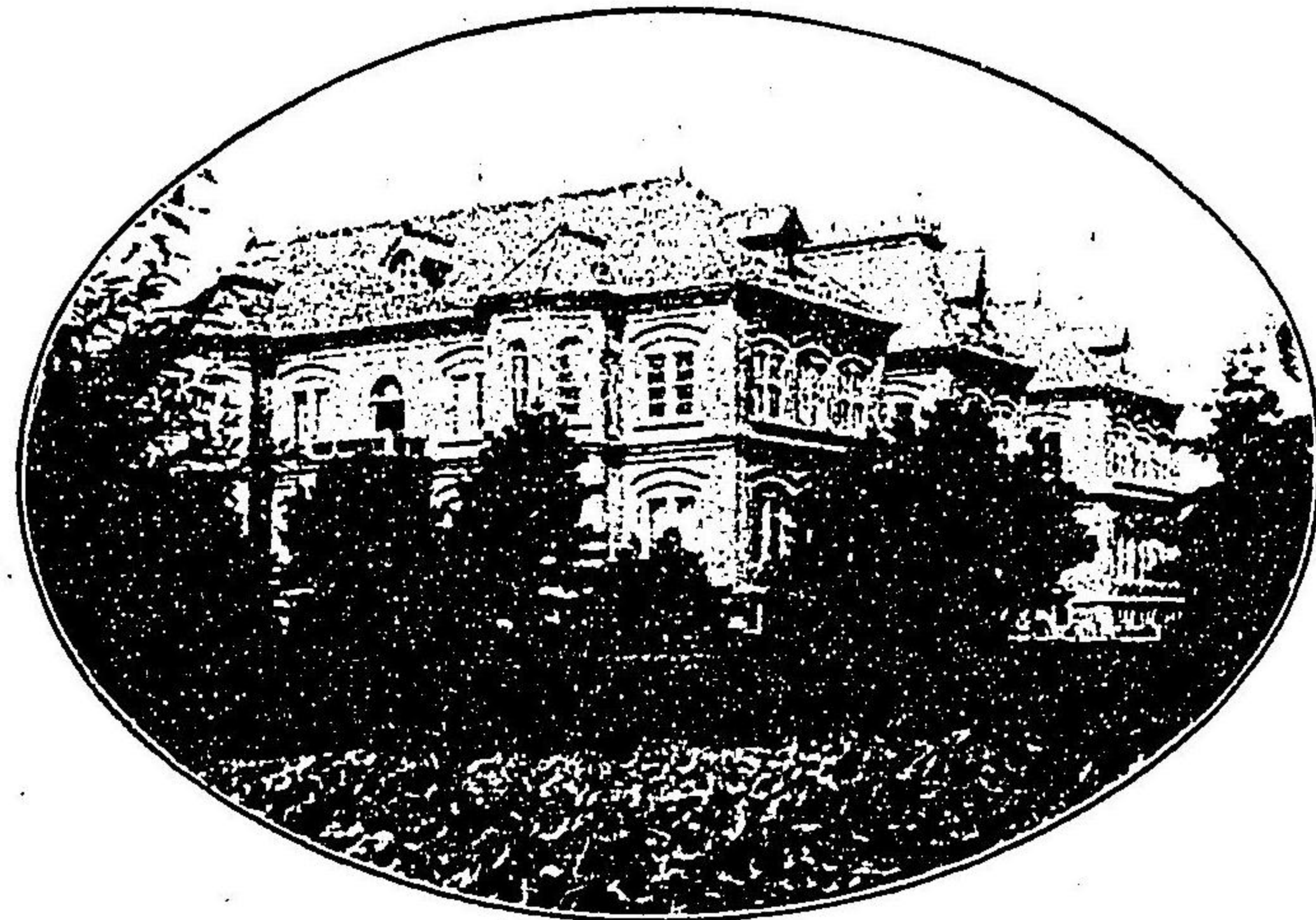
なつかしきあづまてふ名の橋なれば

月も夜なく澄み渡るらむ

農園夕照

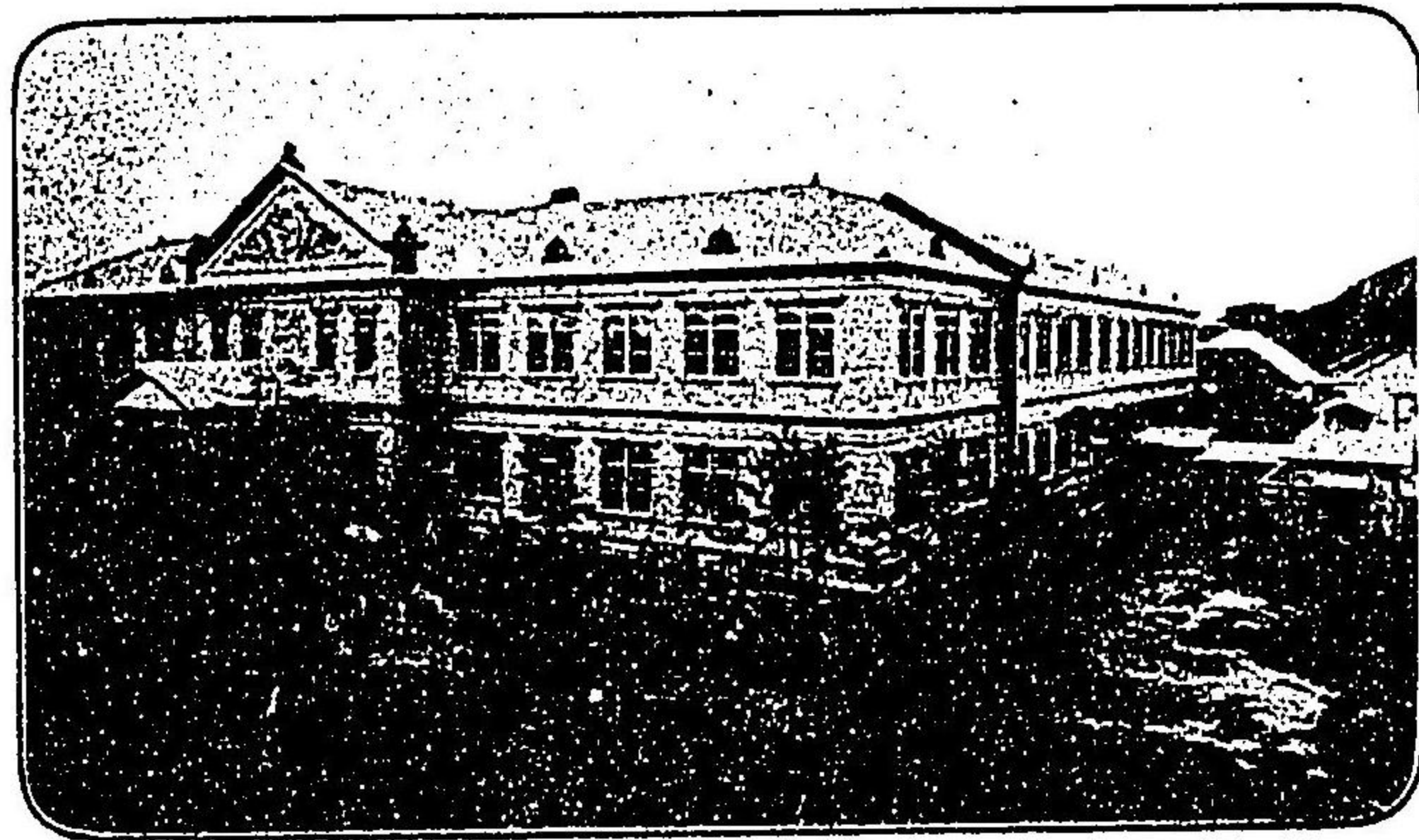
見渡せば夕日照りそふ草むらに
眠れる牛のさまぞゆたけき
惠庭晴雪
雪はるゝ朝げに見れば白妙の
惠庭の山は清くさやけし

发と島



北海道庁

◎北海道廳
(北二條西) 停車場
場を出で、そが
通を北三條に進
めば、端なく右
方に歸焉たる赤
煉瓦の大建物を
見るべし、之を
北海道廳と爲す
明治十九年正月
札幌、函館、根
室の三縣を廢して、道廳を置かるゝや、時の長官岩
村通俊氏、廳舎新營の工を興し、工費十九萬圓、日



北海道廳假設圖

子三年を費して竣成したるもの、實に札幌名物の一にして、五層樓赤煉瓦の大建築物なりしも、惜むべし、客年一月十一日火を失し烏有に歸してより、本年秋漸く再建設に掛り、三年を悶して又舊觀を發輝せんとし、今時大に其工事を督せり。假廳舎は此年三月十五日建築に着手し同八月十五日竣工したるもの、木造二階建にして總建坪六百九十一坪を有し、工費實に八萬七千餘圓を要しぬ。構内南側に道會議事堂あり。

札幌支廳

◎札幌支廳(北二條西) 道廳の南門外日本赤十字社支部に東隣して立てる木造二階建あり。之を札幌支廳となす。元大通西三丁目に在りしが、四十年五月十日の大火に類焼し、翌年十一月此に新築移轉せしもの也。

◎札幌警察署(北二條西) 札幌支廳に南隣せる瀟灑新麗の建物即ち是、四十年の大火に、支廳と共に運命を共にし、今又因縁深く、互に相隣接す。新築落成亦支廳と二にして一。





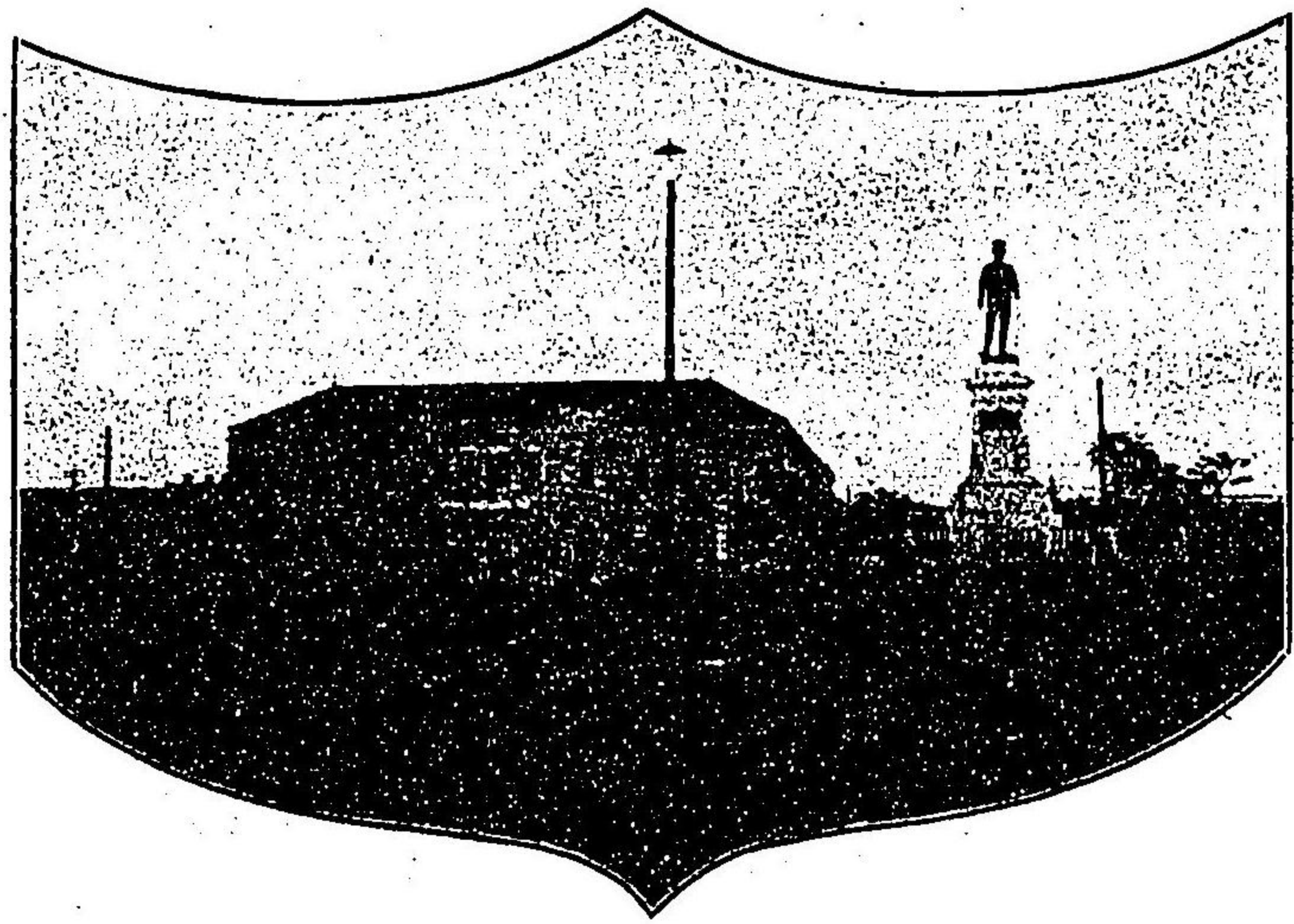
札幌區役所

工費三萬九千餘圓を要して、今は區内壯觀の一たるを失はす。

◎札幌郵便局(大通西三丁目) 元大通南側二丁目に在りしが、亦四十年の祝融氏が怒を脱れ得ず、無慘や焦土に化したるもの、輒ち郵便電信課は北一條西二丁目、元札幌農學校時計臺に、其の他の各課は、大通北側二丁目電話所隣接家屋内に配置し、事務の取扱を了し來れるが、本局舎は同局舎地域内即ち區役所に相隣して、今は十

に入九を完成し、石造總二階建、工費豫算十八萬圓と註す。廳舎の竣工また近時に在りと聞く。實に當區一流の大建築物にして、大通東端巍然として人の目を牽く。實に本道通信機關の中樞たるに恥ぢず。

◎札幌稅務監督局(大通西七丁目) 停車場通を大通に出で、右折すれば西方道に白色宏壯の一樓を見む是を札幌稅務監督局と爲す。明治三十年の開設に係り、全道十五稅務署を管轄す。札幌稅務署その構内に在り。



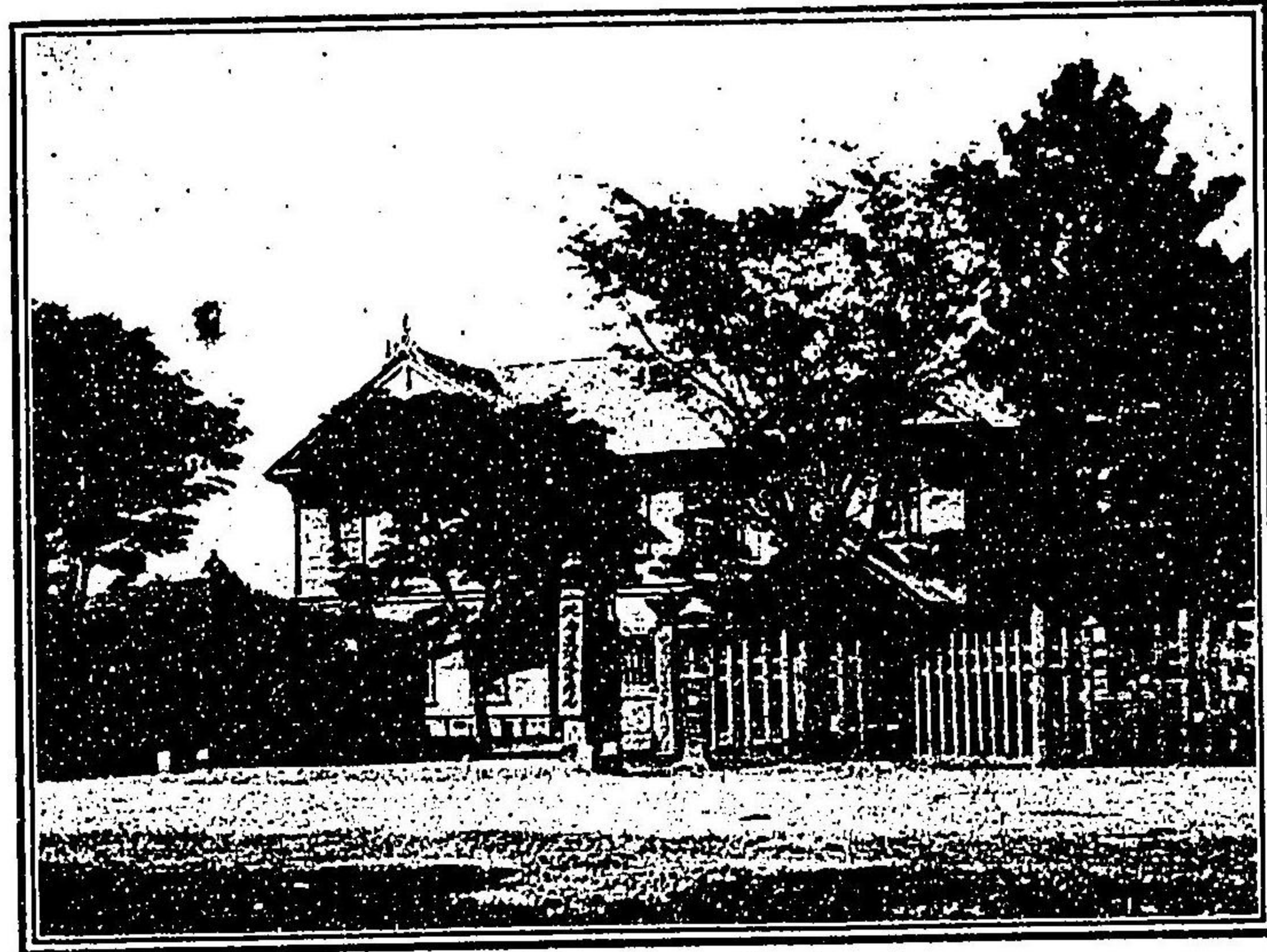
札幌郵便局



札幌稅務監督局

瀧川、増毛、羽幌、上川、名寄、中川、川上の十ヶ所に出張所を置く。札幌出張所は、北二條西一丁目に在り。

◎北海道鐵道管理局(北三條東二丁目) 北海道廳の正門を東に向て、直進すること須臾にして



北海道鐵道管理局

◎希室林野管理局札幌支廳(北一條西十丁目) 稅務監督局を横に見て、北一條通に出で西に廻りて十丁目に達せんか、忽ち茂林鬱蒼の一畫地に會はむ。即ち其れにして、元御料局札幌支廳と稱しき。全道の御料林を管理し、札幌、岩見澤、苫小牧、

創成川に出づべし。橋あり、北三條橋といふ。橋畔四邊を歴して建てられたるもの即ち是。本道鐵道全線の營業及び未成線の建設を執掌し各運輸事務所保線事務所工場等、皆其支配下に屬す。現在開業哩數六百四十五哩に及ぶといふ。

◎札幌鑛山監督署(北六條西) 北海全道の鑛山事務を監督する處、明治二十六年の創設、一度廢止の運命に會ひしかど、越えて二十八年再度の設置せるもの即ち是。

◎札幌一等測候所(北八條西) 創設最も古く、明治九年に在り。家屋のものふりたる、自ら己が齡を語るもの如し。

◎札幌停車場(北六條西) 四十年十月晦日、端なく火を失し、灰燼に歸せしを、明くれば四十一年十二月五日、新築工成りて移轉せしもの。結構壯麗、優に本道首府の停車場たるに恥ぢず。其貴賓室の如き、頗る美を盡せり。工費十萬圓と註せらるゝも、穴勝多しといふべからず。

◎苗穂停車場(苗穂) 鐵道管理局附屬鐵工場の設立と共に開始せられ、大貨物運搬の専用に使せらるゝものにて、本年七月開設を見、爾來荷物の載否、尤も著しく旅客の昇降また多し。

◎北海道廳蠶病豫防事務所(北三條西) 本道製蠶種の蠶病豫防の爲め検査を施行する所。明治三十八年の創立と聞く。管轄區域を擧げなば、空知、上川、函館の各出張所。



其他北海道廳經營の物として、大通東二丁目北海道上道札幌土木派出所あり。道廳構内に、北海道廳札幌管轄林區署あり。

◎札幌地方裁判所(北三條西) 札幌停車場を後にして、南進すること三町、今や北海道廳に曲らんとして、左方の一角、嚴然と廻らせる柵あり。即ち札幌地方裁判所の垣柵となす。屹然として建てる態、國家法律の何物たるを默示するに似たり。石狩、日高、天鹽の三箇國及、後志、膽振、北見三箇國の各一部に亘り、小樽に支部を置き、札幌外七箇所に區裁判所を設け、又管内三十箇所に出張所を置く。而して札幌區裁判所は、其構内に在り。

◎札幌監獄(苗穂) 札幌市街地を距る北方一里に在り。元北海道監獄署と稱し、全道を管轄せしが、三十九年今の名に改め、札幌地方裁判所と管轄區域を同することとなり、三十九年樺太領有のことあるや、同道をも管轄するに至れり。出張所を北七條西一丁目に有し、専ら未決男囚を拘留する處にして、余市、岩内、室蘭、鶴川、浦河、旭川、岩見澤増毛の各地に亘りて其管轄區域を定む。

◎札幌聯隊司令部(大通西) 元陸軍練兵場たりし曠地の東北隅に位置を占め、周圍に其官舎を率ゐて、隱然一部落を形成するものに似たり。札幌、小樽の兩區及札幌、小樽、岩内、空知、室蘭、浦河の六支廳管内の徴兵並召集事務を管掌す。



其他官衙としては、苗穂村に陸軍糧秣廠札幌出張所あり、大通東一丁目に札幌憲兵分隊ありて、皆社會の耳朶に懸りぬ。

學 校

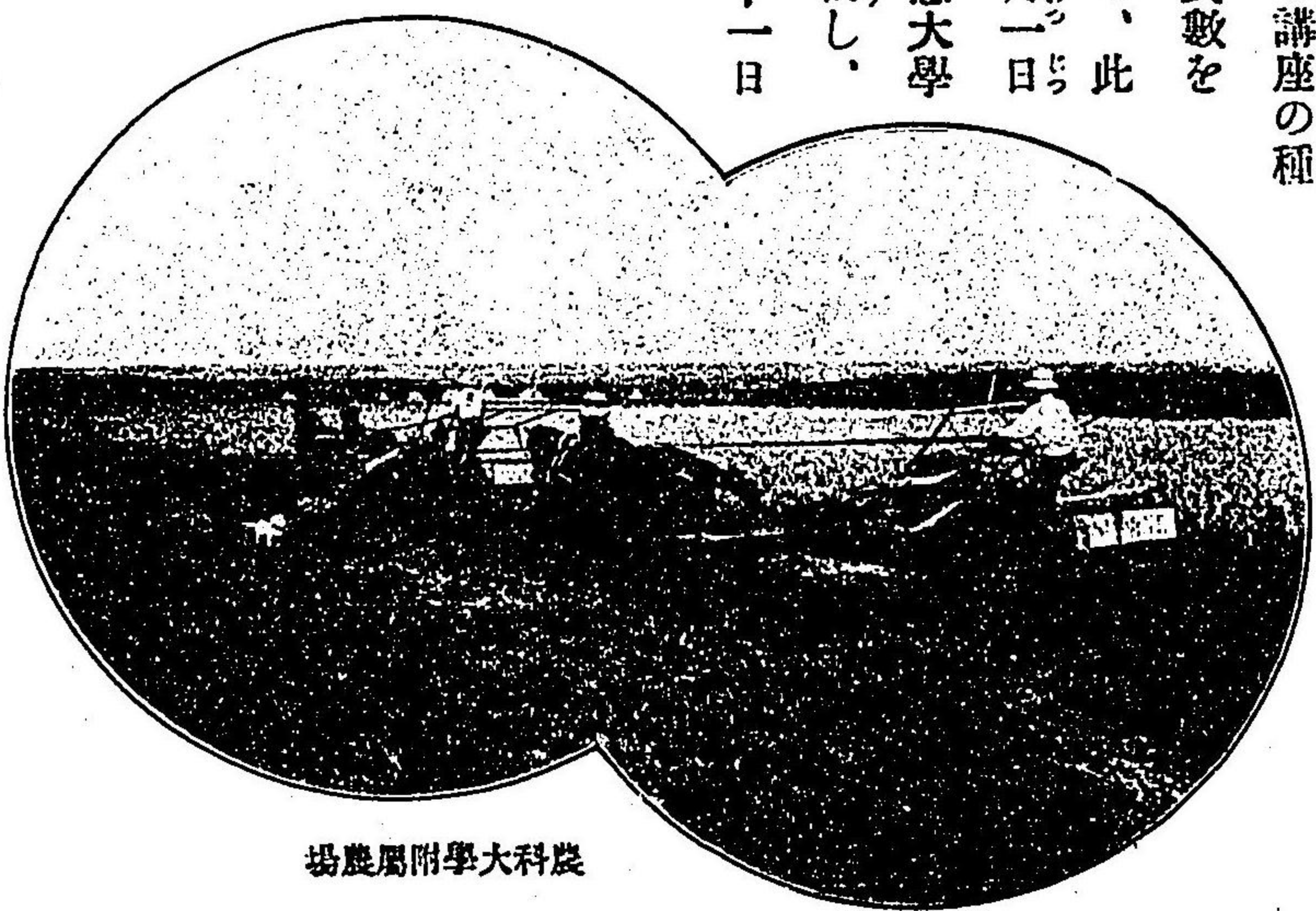
◎東北帝國大學農科大學(北九條西六丁目) 小樽よりの汽車琴似を過ぎて、今將に札幌驛に入らんとするに、左方蕪林の間に隱見する巍々たる樓楹に心付かん。即ち本大學の一端が眼界に映せしにて、校舍の宏莊、敷地の廣濶、將た設備の完全せる、東都以北稀に見る所とかや。抑々初明治五年四月、東京芝増上寺境内に、假學校として開かれしもの、即ち本大學眞先の創設なりける。後八年八月假學校を札幌に移して札幌學校といへり。斯くて翌年米國マサチューセツ州農學校長クラーク氏を禮を以て聘し、校規を刷新して札幌農學校と改めぬ。越えて二十年春三月農學科の外に、工學豫科農藝の三科を設け、二十二年更に兵學科を置き、屯田兵士官に軍事及農業教育を授く。爾來年を閱みすること七回、二十九年六月文部省の直轄となり、工學科及豫科を廢し、明くる三十年新に土木工學科を設け、三十一年豫修科を置き、三十二年農藝傳習科を農藝科と改む、又林農科を新設し、三十四年八月土木工學科及林農科の程度を高め、三十六年二月專門學校令の支配する處となり、同年新築校舍成



を以て、時の文部大臣牧野伸顯氏臨場、親しく開校式を擧げき。卒業生を出すこと豈千有餘名、善く官民各要職に就き、本道の拓殖及社會に貢獻したるの功績、敢て贅するを要せざるべし。若し夫れ本學内文武會の年々擧行する遊戯會の如き本邦官立學校中最も古き歴史を有するものにして大に誇るに足るものありといふ。

れりければ、北一條の舊校舍より、今の處に移轉しぬ。尋いで三十九年三月、三箇年の繼續事業をもて水産學科教室實驗室及臨海實習所新築の事を決し、著々其工事を進捗しけり。翌四十年六月勅令を以て東北帝國大學を仙臺に置かるゝや、遂に札幌農學校を改めて、東北帝國大學農科大學と爲し更に官制を改め講座の種類及其數を定めて、此

年九月一日より愈大學を開校し、其月十一日



場農屬附學大科農

◎**廳立北海道師範學校**(南一條四) 本區隨一の要衝南一條通を圓山街道に進むべく西十五丁目に至れば、瓦屋木壁の高大なる建物あり。是を廳立北海道師範學校と爲す。抑々明治九年二月開拓使に於て、函館に小學科傳習所を置きたるは、本道師範學校の起原にして、札幌縣時代に於て札幌縣師範學校と稱し、後十九年九月廢縣置廳と共に、北海道師範學校を置き、更に函館に分校を存せり。越えて二十年四月開分校を廢して、本校を北海道尋常師範學校と改稱し、翌二十一年二月第一回の卒業生を出しぬ。おもはざりき、二十四年十二月の失火や。校舎の全焼今なほ人をして惜ましむ。かゝれば一時舊札幌區役所跡及町會所跡を借用して授業を續け居しを、二十七年九月を以て、現處に新築移轉しけるなり。實に本道唯一の小學校教員養成所として、北海道國民教育の成否其半を茲に俟つべき也。嗚呼本校の任や、重且遠。

人の子を我が子とぞおもふ人々の影も尊し子はそだつかな

平田素山

◎**廳立札幌中學校**(北十條四) 農科大學の正門を北行すること一町、更に東すること僅かにして建てり。明治二十八年四月の創立に係り、七月北海道師範學校講堂に於て生徒の入學式を舉げ、北八條西四丁目舊私立北鳴學校舎を借用して授業を始め。翌八月には現所に新築校舎竣成したれば、乃ち開校式を舉行しき。爾來校舎漸を追ふて擴められ、今や生徒を容ること六百餘人に及ぶ。其冬季雪戰會、勇壯を以て名あり。

◎**廳立札幌高等女學校**(北二條四) 明治三十五年四月の創立にして、敷地三千五百餘坪、建坪九百九十餘を有し、帝室林野管理局札幌支廳と相對して峙立す。生徒常に四百に餘り、其卒業生にして本道の小學教育に従事するもの亦尠からず。家庭的寄宿舎の設けあり。

◎**北海道廳農事講習所**(北一條四) 明治二十二年の創立、初、札幌蠶業傳習所と稱ししが、

三十四年十二月現時の名稱に變じぬ。後學科の程度を高め、規模を擴張して、本科別科を置く。今日迄養成し來れる生徒四百餘名に及ぶといふ。

◎**區立女子職業學校**(南七條四) 本區の公園中島遊園地に入らんとして、倏ち巋然たる學校を見ん、即ち其れにして、四十年五月開立す。女子の淑徳を修め、實用的技藝の修得をなさしめんとての創建にして、現校舎は四十一、四十二年度に亘りて落成し、本區經營の最大校とす。生徒數本年度より四百名以上に及び、益々隆盛に赴かんの形勢を視る。學科を分ちて修身、國語、數學、理科、圖書等の學科を綜とし、裁縫、刺繡、造花、割烹、編物等の實科をその經とせり。而して其寄宿舎は規模設備俱に整ひ、恒に百餘名を收容するに足る。

◎**札幌工業補習學校**(三ノ) 本校は工業者の徒弟及職工に簡易なる方法に依り、其職業に要する智識技能を教養せんとて、四十一年五月より第一校を北九條尋常高等小學校内に、第二校を豊水尋常高等小學校内に附設したるものにて、學科は普通科の外に、金工、機械木工、建築の四科に分ち、其修了期を一ヶ年とし、技術は専門の教員をして之に當らしむ。亦本區の經營とす。

◎**私立北海中學校**(豐平) 明治十八年三月本區南二條東二丁目、私立北海英語學校として起り、卅四年更に中學部を置き、卅八年三月北海中學校と改稱せり。四十一年豐平町の廣原に地を下し、校舎を新築し、功成りて翌年三月移轉せり。敷地三萬四千四百坪、代議士淺羽靖氏の經營に係る。

◎**私立北海高等女學校**(南六條四) 大谷本願寺派の機關にして、佛教主義に依り、女子に中等教育の課程を施す所たりしが、四十三年三月高等女學校としての認可を得、近時規模頗に張れり。

◎**私立北星女學校**(北四條四) 明治二十二年八月の創建にして、元スミス女學校と稱ししが、

二十七年八月今の新築校舎に移轉し、北星女學校と改め、基督教主義の下に、女子中學課程の學科を教授せり。

◎其他諸學校 右の外區立小學校には中央創成尋常高等を始め、西創成尋常高等、札幌女子尋常高等、豊水尋常高等、北九第尋常高等、東尋常、東北尋常、豊平尋常高等、山鼻尋常高等の各小學校あり。又私立には、松華裁縫女學校、成美女學館等あり。

教育後援

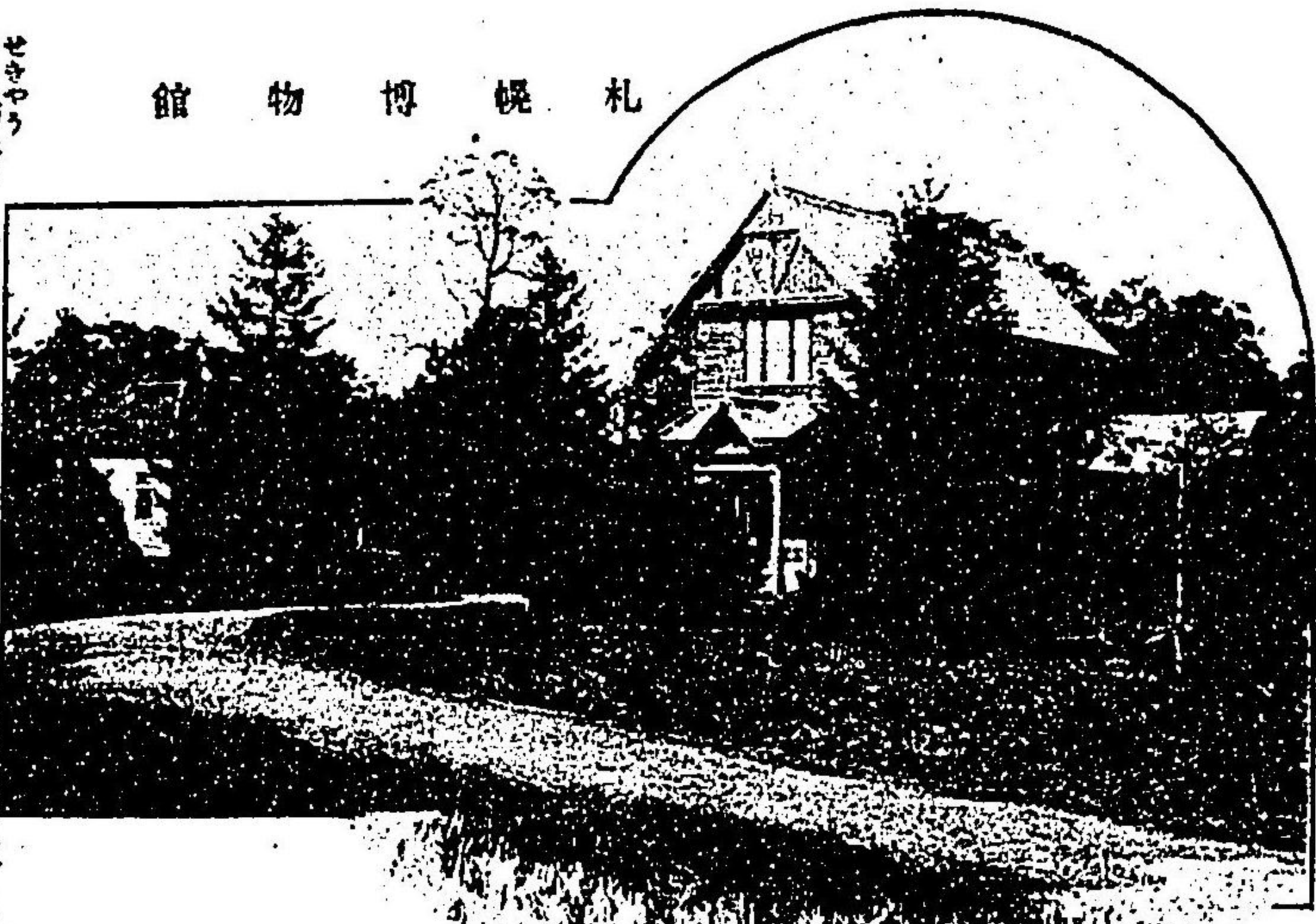
◎北海道教育會(北二條西) 本道教育界の羅針盤にして明治二十四年七月の創立に係る。全道教育者及官民有志の會員より成り、目下會員の數三千に垂んとす。教員の講習會を開き、有益の圖書を出版し、圖書館を設け、毎月一回「北海之教育」てふ機關雜誌を發刊し、號を累ぬると二百餘號に及べり。

◎札幌區教育會(北二條西) 本區教育の進歩開達を期せんとて、明治四十年一月、區當局者及區内教育者の相謀りて設立したるものなり。中央創成尋常高等小學校内に開設しける夜學會の如き、曾て北九條小學校内に設けたりし徒弟夜學會の如き皆同會の事業にてありき。

◎圖書館 としては、北海道教育會附屬圖書館、札幌女子小學校構内戊申文庫、北九條尋常高等小學校内通俗圖書館等にして、相應の和漢洋圖書を藏せりと稱すべきも、未だ圖書館として中外に示すべきものなし、唯農科大學附屬圖書館は、設備宏大、藏書數萬、甚だ稱すべきなれど、同大學關係者の研究に資するのみ。

◎博物館(農科大) 農科大學附屬植物園に在りて、もの堅き二層の構造なり、本道所産動物、礦物將たアイヌ人の製作物などを蒐集し、専ら同大學學生研究上に造り成されたるものなれど、

札幌博物館



本道來遊者をして本道産の概況を窺はしめんとて冬期積雪の候(自十二月)を除きては、毎週日曜水曜の二日を定め、衆庶の縦覽を許せり。現下貯藏の標本數之を合すれば、二萬二千三百有餘の點數に達せりと云。

◎植物園(上) 本區北二條より北五條に跨り、

西八丁目より十一丁目に至り、面積三萬三千三百六十坪餘、老樹喬木畫猶ほ暗きまでに生ひ茂り、冬も凍らぬ溪流

其間を繞ひて水甚だ清冷、

軟草綠芝、常に菁々我々に若し夫れ

夕陽漸く西山に傾かんとして紅霞樹林に落ちんとせば、晚鴉啞々として啼いて駐まず、自ら詩情の禁せざるものあり。純ら本道所産の植物、及内外の種類を汎集し、其分類所屬を明かにして、植物學實地教授並に研究の料に資するのみならず、本道の風土に適否如何を試験し、以て本道の園藝又は造林上に裨益せんとはその目的なり。而して園内を自然分科園



農科大學附屬植物園温室

樹木園、灌木園、試験園、及温室附屬園の五區に分てり。
其温室は俗に「花むろ」といひて、専ら暖國産の植物を培養し、冬期間植物學研究の材料に供ふる外、植物生理の實驗場にして、公衆への縦覽を許すは、博物館のそれと定日を同うすとはいへど、四季百花爛漫として絶ゆる折なければ、その名風に高し。

法園

學藝團體としては博物に關する學者の團體にして、動物學植物學人類學及地學を研究し、北海道に關する事項を調査するの目的にて明治二十四年創立せられたる札幌博物學會(農科大)あり。農學林學を研究する札幌農林學會(上)あり。醫學研究團體にして、私立北辰病院内に組織せらるる、北辰病院研究會(北一條西)あり。共に毎月又は一箇年に回數を限り、會報或は機關雜誌を發行せり。其他豊水吟社とて當區詩人の團體あり。公共團體としては大日本赤十字社北海道支部(北一條西)愛國婦人會北海道支部(上)看護婦養成所(上)あり。又、日清事變に起れる征清軍人の家族保護會を持續せる北海道尚武會(北三條東)あり。軍人後援會北海道支部(北二條東)あり。本道拓殖事業の完成を期せんとて、本部を東京に置く北海道協會支部(三丁目)あり。又、大日本體育會北海道支部(大通東)ありて、日々鞍劍柔道の指南を爲し、夏季は特に水泳術を教授するあり。尙ほ、北海道廳内には、大日本武德會北海道支會、大日本水難救濟會支部などいふありて、何れも銳意會運の進達に懋めり。
實業團體 としては、明治三十三年十二月農會法に據り組織せられたる北海道農會(七丁目)ありて、系統的に十七郡農會及百五十九町村農會を管轄し、機關雜誌を發刊し、國庫地方費の補助を受くるあり。又、北海道園藝會(上)とて専ら本道の園藝發達に努力するあり。其他、北海道農友會

(上)北海道蠶絲會(上)北海道畜産協會(北四條西)北水協會(七丁目)北海道林業會(北四條西)ありて、農業、蠶絲業、畜産、水産業林業に力を致せること一二にして足らず。
政黨及社文團體 としては、立憲政友會札幌支部(北四條西)憲政本黨北海道支部(大通西)北海道俱樂部(北四條西)北海道鑛業會(三丁目)公衆俱樂部(中島遊園地)などあり。

試験場と陳列場

◎北海道農事試験場(北八條西五丁目) 本場は本道農産の増殖改良に關する各種の試験並に調査を爲し、その結果を普く一般農家に知らしめ、優良の種苗を育成配布し、農事に關する智識の普及を期せんとて、明治三十四年創めて國庫支辨をも

て開設せられぬ。札幌停車場を北西に距る凡そ二十五町農科大學の北裏手に位置す。本場用地の面積正に十七町五反六畝歩、種藝部、病理昆蟲部、農藝化學部、庶務部の四部に分割せり。

◎北海道物産陳列場(中島遊園地) 本道唯一の公園中

島遊園地の境に入りて、端なく目に映するは、池水の心廣さと、北海道物産陳列場の樹間に聳ゆるとなり。いでや何物か陳列されあらんと、开が門を入り、廳で堂に昇れば、本道生産に係る各種の物産及參考上必要なる内外國の物産を蒐集陳列さるゝ也、併もなほ一般の委託に應じて物品の販賣をもなせり。陳列品の主



なるものは、農業、林業、水産業、鑛業、及工業の五大種にて、更に之を三十類に細別したり。過ぐる二十五年の創立にして、三十九年より委託販賣の方法を設け、廣く各地の特産を蒐めて、一は参考にし、一は販路の紹介を營む。敷地八千八百餘坪、建坪七百七十七坪餘あり。花咲く春の頃、緑滴る夏の日、紅炎ゆる秋の候、遊園地散策がてらに、杖を曳く者一二三四を幾度返へすを知らず。共進會、品評會の開設も多くは此處にあるらし。

とりぐに列ぶる品に見えてけり

蝦夷が島根の人の力は

平田素山

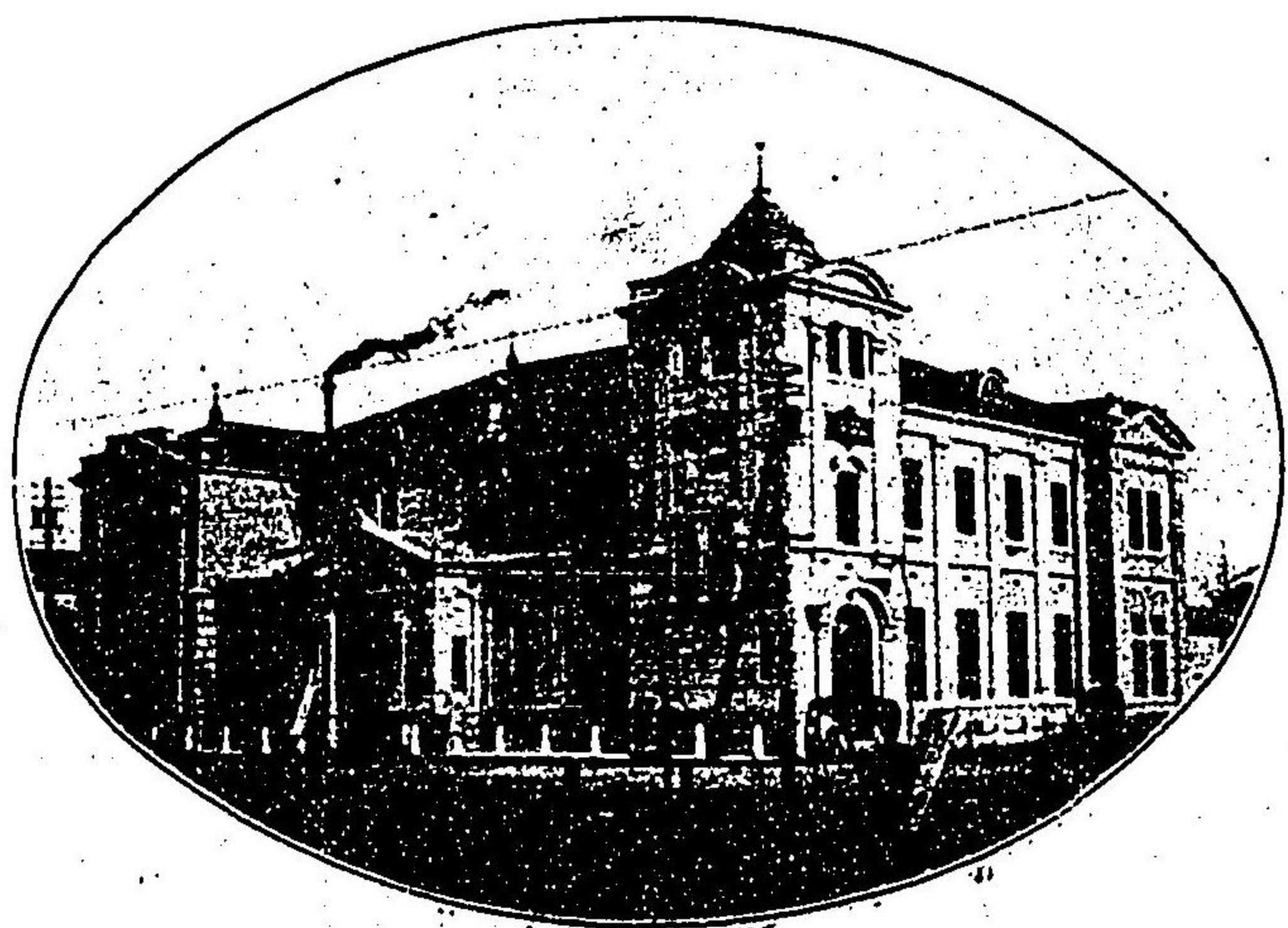
商業博覧會

◎札幌商業會議所(北二條西) 札幌區に於て、商工業發達を圖る法定機關にして、其未だ會議所の認可なきまでには、札幌商業俱樂部といひき。去る卅九年十月商業會議所設立の認可を得るや、諸般の準備を了し、四十年二月第一回議員を選擧し、爾來今日に至る。其他、商業取引に關係ある個人又は團體の信用程度を調査し、實業界に生ずる恐慌を豫防せん目的にて、東京に設立されある東京與信所札幌派出所あり。又、本區内に於ける商工業者の同業組合は札幌農産組合を筆頭に、現在四十三あり、而して此同業組合を以て組織したるもの、之を札幌實業組合聯合會と稱し、札幌商業會議所と相待ちて、本區實業社會の利害を研究する機關たり。

銀行

◎北海道拓殖銀行(大通西)

札幌停車場通を真南に向つて大通に出てんか。その左角巍乎



北海道拓殖銀行

たる建物あるべし、題して株式會社北海道拓殖銀行と稱せん。實に本道唯一の拓殖的金融機關にして、東京、小樽、函館、旭川、樺太豊原に支店を有し、黄金五百萬圓を資本とせる大株式會社なり。行内に資本金二萬五千圓の泰北銀行あり。

◎北海銀行(南二條西) 明治二十二年七月の創立にして、資本金三十萬圓、本區最古の銀行なり。取引先また多し。

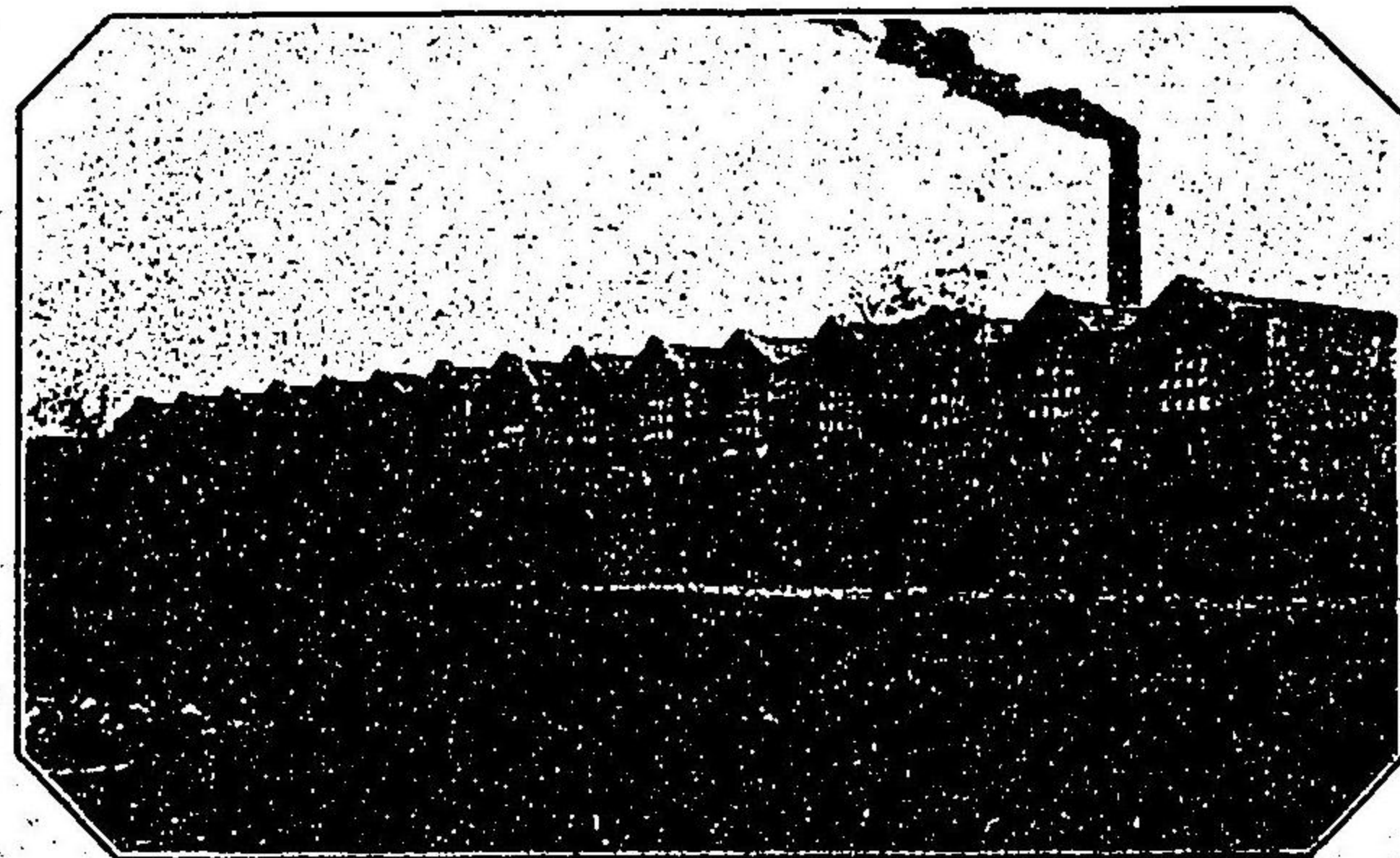
◎北海道銀行札幌支店(南二條西) 明治三十九年五月小樽銀行、北海道商業銀行の合同せしものにて、資本金七十五萬圓、小樽區に本店を有し、本區はその支店也。現在建物は元日本銀行出張所なりけるを、其廢止と共に移轉したるなり。干時卅九年八月。

◎北海道拓殖貯金銀行(大通西) 北海道貯蓄銀行の紛雜せる事務を整理して繼承したるもの即ち本銀行にして、北海道拓殖銀行後援の力與りてその多きに居る。資本金貳拾七萬圓、蓋し往年貯蓄銀行の繁盛はなきものゝ如し。其他銀行として立つもの、南四條西四丁目、小樽區に本店を有する株式合資會社中立銀行の支店あり。明治三十四年一月の設立にて、資本金十有五萬圓。

小樽及小樽

本區の工場は明治五年開拓使米國人の設計により、鐵工場、木工場等を設けしに起り、爾來幾多の工業を興ししかど、十九年北海道廳の置かるゝと共に、一切を拂下げて民業に移し、年々逐ふて盛運の域に進めり。尙ほ且つ、工場會社の勃興ありて、漸く本道の工業地を以て目せらるる有様を現せんとするに至れり。

◎帝國製會社札幌支店(北七條東) 本區最大の會社にして、赤煉瓦造 宏 大の建築、泰然として北七條創成川東岸を壓す。明治二十年五月の創立にして、元北海道製麻株式會社と稱ししが、四十年七月、日本製麻會社と合同して現今の名に改む、資本總額六百四十萬圓、製品工場を札幌、



帝國製會社札幌支店

日光、鹿沼、大津、大阪の五ヶ所に有し、本道の亞麻製絲工場を十八ヶ所に設く、札幌工場にては、麻絲織物を製し、日々の使用職工、男女を併せて約一千人に及ぶといふ。

◎大日本多會社札幌支店(北二條東) 北三條橋を打ち渡り北海道鐵道管理局の前を過ぐることに更に三町、又巍然たる煉瓦造の建物に會せん、即ち本支店の工場にして、明治九年開拓使廳の創設に係り、十九年拂下げて民業に移し、札幌麥酒會社と稱ししを、卅九年一月、惠比壽、朝日の兩麥酒會社と合同し、現時の名稱に改む。工場は釀造、製麥、製瓶、製函、ホップ園の各部より成り、一日の仕込力二百石、一年の釀造力三萬石にて、即ち四打入十五萬箱の生産力を有し、資本金百二十萬圓とす。

◎札幌木材株式會社(北五條西) 明治四十年八月、元



麥酒會社工場

重谷木挽所の事業を繼承し、擴張せしものにて、資本金百二十萬圓の會社也。

◎札幌製粉株式會社(北五條西) 明治三十五年五月の創立、資本總額金十萬圓。過般神戶鈴木商會に讓渡せしより、規模更に擴張を見る。

◎札幌水力電氣株式會社(北二條東) 元北海道電氣株式會社の事業を承繼せしものにて遠く定山溪なる水力の應用を實行し、社名を改めしは、明治四十一年十一月に在り。資本總額金七十五萬圓、本區の電光電力は、一に本會社の供給に俟つ。

◎札幌石炭鐵道株式會社(南二條西) 明治四十年七月の創立にて、資本金三十萬圓、刻下石材採取の業務を主體とせり。馬鐵の運輸は本社より、平岸村石山に到る間に過ぎざれど、追々札幌市中を串通し、苗穂停車場並に遊園地にも及ぼす計畫なり。夏秋の定山溪旅行者、これを藉るもの近時漸く多し。

其他會社には北海道馬匹獎勵株式會社、札幌

幌葡萄酒合資會社、札幌酒造合名會社、札幌工作株式會社、共成株式會社支店、内國通運株式會社支店、札幌倉庫株式會社、北海倉庫株式會社、五十嵐倉庫株式會社、魚印株式會社、北海道蠶業株式會社等あり、工場には松崎機業場、農桑館、名取製絲所、小林製絲場、河内硝子工場、北海石版所等あり。

社名及ぶ

◎官幣大社札幌神社(圓山) 南一條通を西に向つて郊外に出で、尙西すること二十五町餘にして同神社に達す、明治二年勅して神祇官に神鏡を奉祀して札幌に奉還せしめ、三年北六條東一丁目に小祠を建て、之を一の宮と稱へぬ。四年國幣小社に列せられ、神殿を圓山村の西南高丘に造營して、之に奉迎す、故に圓山神社の稱あり。地既に高燥にして樹木鬱蒼、境清淨にして閑雅幽邃なり。五年官幣小社に列し、二十六年同中社に昇り、三十二年遂に官幣大社に進めらる、祭祀の神は、大國魂命、大名牟知命、少彥名命の三柱にして、毎年六月十五日をもて、例祭を行ふ、三十六年神社造營會を設け、全道より金十萬圓を醸集し、新築工事に著手せん計畫にて、目下鋭意進行中なり。境内多く櫻樹を植ゑたれば、春櫻花爛漫の時、觀覽の客、絡繹難闕す。

圓山の神の齋垣のみたらしに
光みちぬる秋の夜の月

結城 國定

千早振かみのい垣にみよしの
花をも見よと誰が移しけむ

河野 常吉

◎郷社三吉神社(南一條西) 祭神は大名牟知命、少彥名命にて、明治十一年建立し、十五年村社に列し、二十五年社殿を改築し、三十年郷社に昇格せらる。祭典は毎年九月八日に擧ぐるを例とす。

◎東本願寺別院(町山)

明治三年門跡大谷光勝師勅を奉じ、光瑩師を以て代理と爲し、親しく荆棘を披きて寺院を建立せしむ、二十五年堂宇を改築して別院と稱し、輪番役僧をおき、寺務出張所を設けて、管内末寺を總括せしむ、境内廣くして樹木多く、自ら寺院の風趣を發揚せり。

さびしさの何處はあれと尾花散る
野寺にひびく夕暮の鐘

結城 國定

◎西本願寺別院(南四條西)

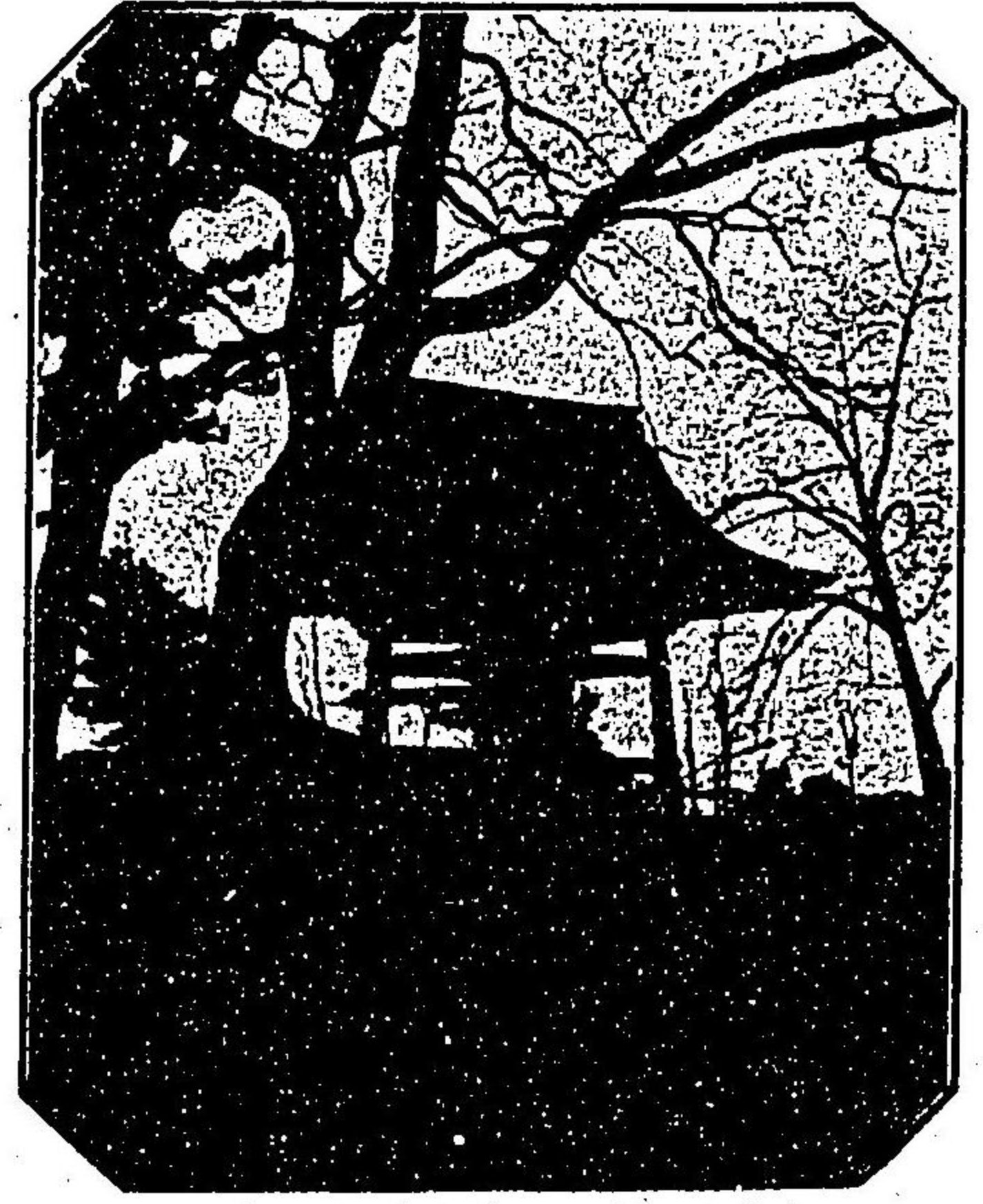
明治十一年出張所を設け、布教を開きしに基因し、十二年寺格を進めて、西本願寺別院と稱す。かくて二十八年本堂、伽藍、及鐘樓等成る。

◎中央寺(南六條西)

明治七年の創建、十五年寺號を公稱す、曹洞宗吉祥山永平寺派に屬す、境内澹々泊々、自ら禪味あり。其茶庵に一日の清談をなすも妙。

◎新善光寺(南六條西)

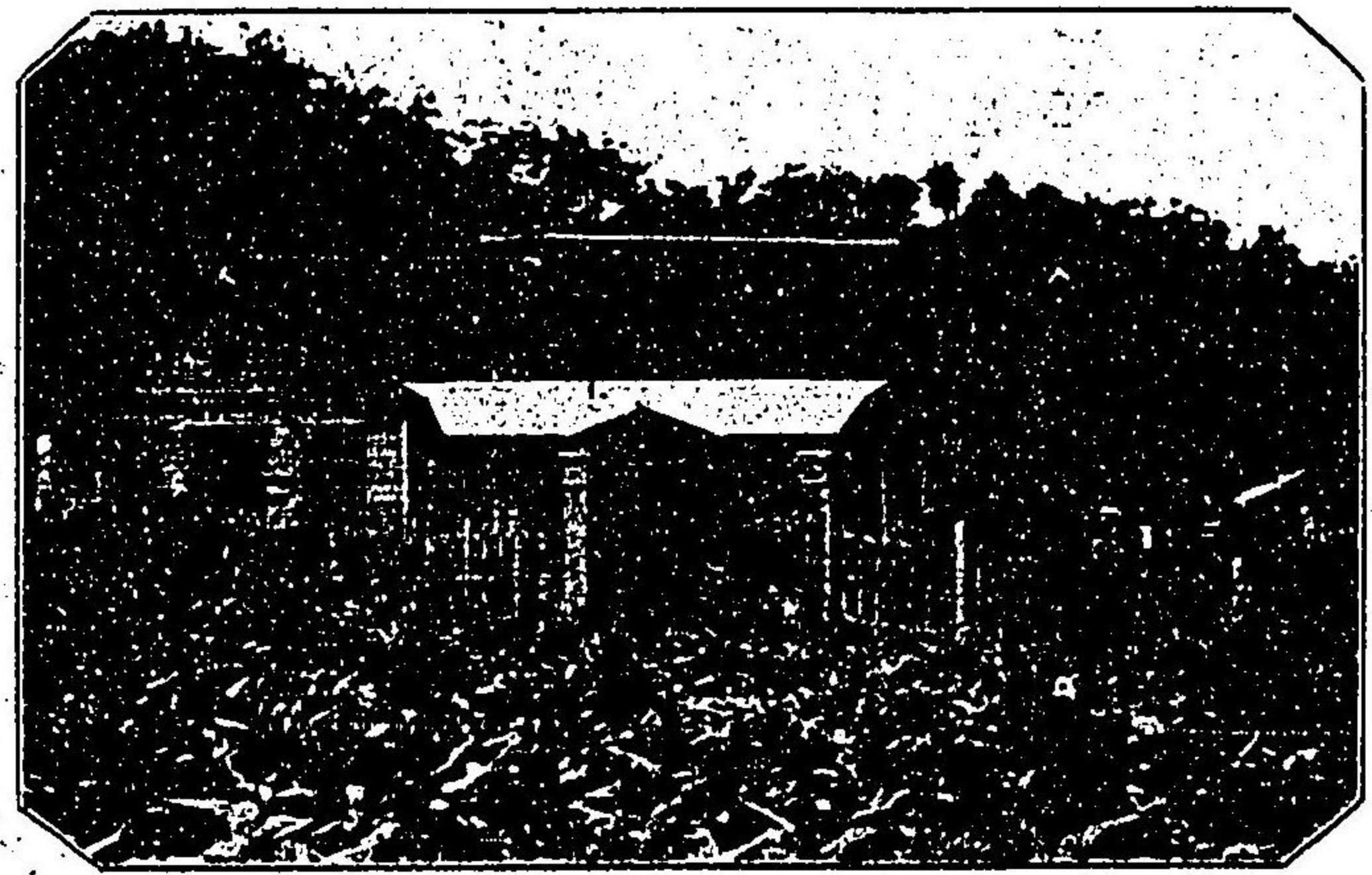
明治十五年の創立



浄土宗に屬す。本山は三線山増上寺なり、十七年寺號公稱。其他、成田山新築寺、北海寺、經王寺等あり。

◎基督教會 には札幌美以教會、札幌組合基督教會、札幌聖公會、日本基督北辰教會、札幌獨立基督教會、札幌浸禮教會等あり。

病状を代



北 海 道 立 感 化 院

◎**国立札幌病院**(北一條西) 明治五年開拓使に於て病院を設け、札幌病院と稱す、二十年院制刷新の議起り、獨逸國よりドクトル、グリーンム氏を聘して院長となす、二十三年四月官立を廢して札幌區に交付せらる、建物の築營は勿論、器具機械殆ど完備し、就中エックス光線の設備は、最新式のものを用ひ、醫療上多大の利益を與へつゝあり、又本院特種の事業として、産婆生の教習、看護婦の養成をなせり。

◎其他は私立病院にして、主なるものは北辰病院、逸見病院、荒井病院、豊水病院等あり。

◎尙、感化院孤兒院としては、**感化成化院**(山鼻) 札幌育兒園(地邊)等あり。

新聞雜誌

明治十六年始めて創成社より札幌新聞を發刊したるもの、抑も本區新聞雜誌類の濫觴たりしが購讀者少くして二十五號にて廢刊し、爾後幾多の變移を累ねて今日の盛況を作る。

◎**北海タイムズ社**(大通西) 明治三十年八月、北海道毎日新聞、北門新報、北海時事の三社合同し、三萬八千餘圓の合資をもて組織したるもの、實に本道に於ける大新聞なり。

◎**札幌實業新報社**(大通西) 毎月六回の發刊、札幌商業會議所の機關たり。

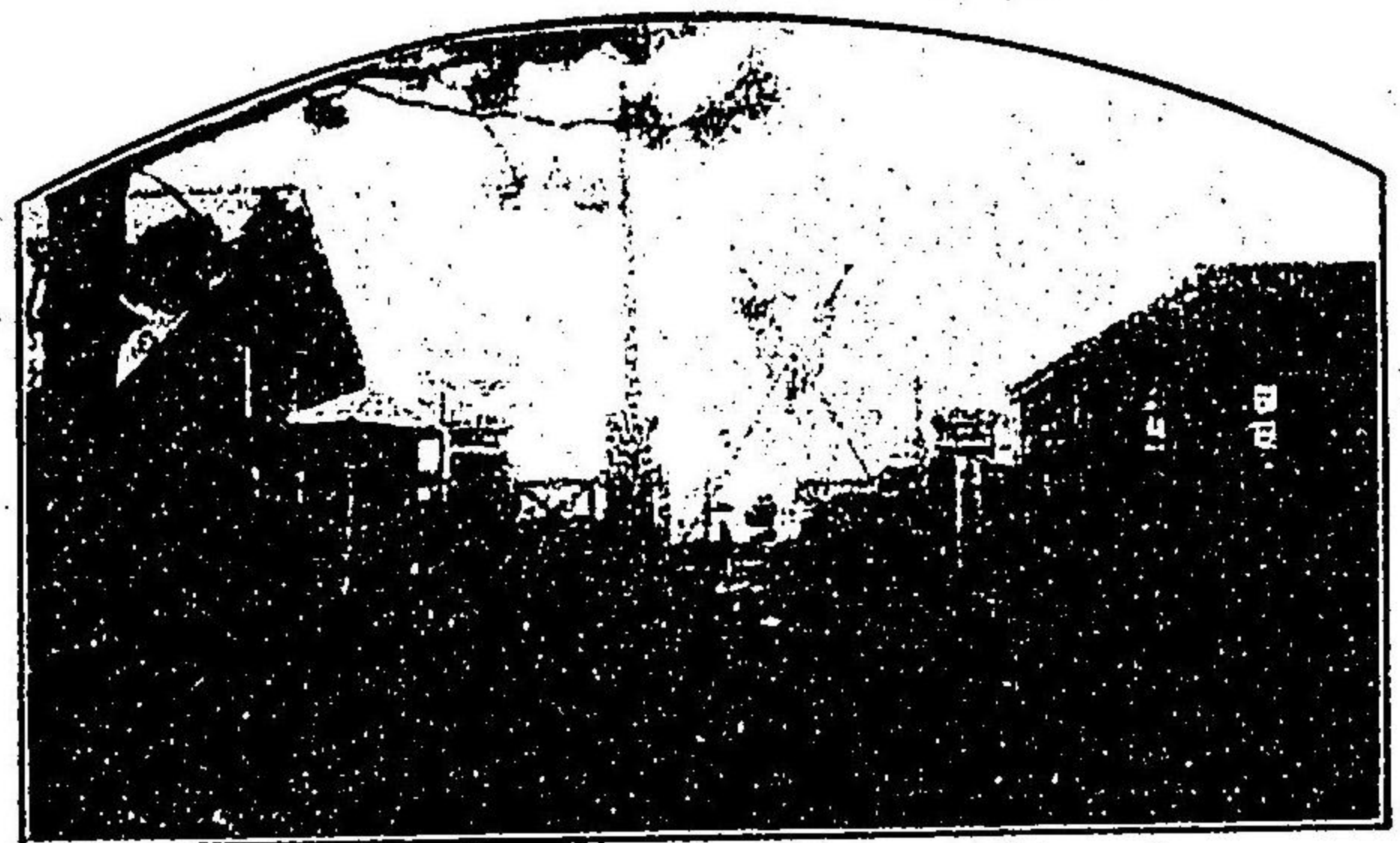
其他、北世界として毎月六回、北海之教育、興業界等ありて毎月一回の發刊。

歩兵第二十五聯隊

南四條街を後にして豊平の滾流を渡らんか、豊平町に入るべし。之を東に向つて直進すること暫くにして、倏ち丘圃うち連き、自ら一の砦壘を成す高臺に出でん。即ち月寒干城臺にして、臺上悉く兵營を以て固む。是を歩兵第二十五聯隊と爲す。札幌本區を距ること正に里許。實に本道中原の重鎮たり。いでや、暫しその由來を説かん。

歩 兵 第 二 十 五 聯 隊

抑々本聯隊は明治二十九年十一月十六日を以て、獨立歩兵大隊として設置せられたるに起因し、超えて三十二年十一月歩兵第二十五聯隊第一大隊と改む。翌三十三年十一月陸軍中佐渡邊水哉氏聯隊長として轉補し、あくる十二月二十二日軍旗を授與せられ、三十五年十一月はじめて聯隊組織を完成しぬ。三十七年日露の役起るや、渡邊聯隊長統率の下に、此の年十月二十日といふに、豪氣堂々出征の途に就く。斯くて霜月未六日松樹山補備砲臺攻撃にと、中村少將が指揮に屬する特別技隊に加はり、壯烈なる奮闘を試む。爾來幾多の激戦に参加し、先づ、二〇三高地を陥れて、敵をして難攻不落と譏はしめたる旅順の堅城をも、遂に開城の止むなきに到らしめ、更に懸軍長驅、奉天の大會戦にも克く殊功を奏し、露國との媾和成るに及び、赫赫たる光輝ある軍旗を翻しつゝ、凱旋しけるは、實に三十九年春三月四日なりき。嗚呼

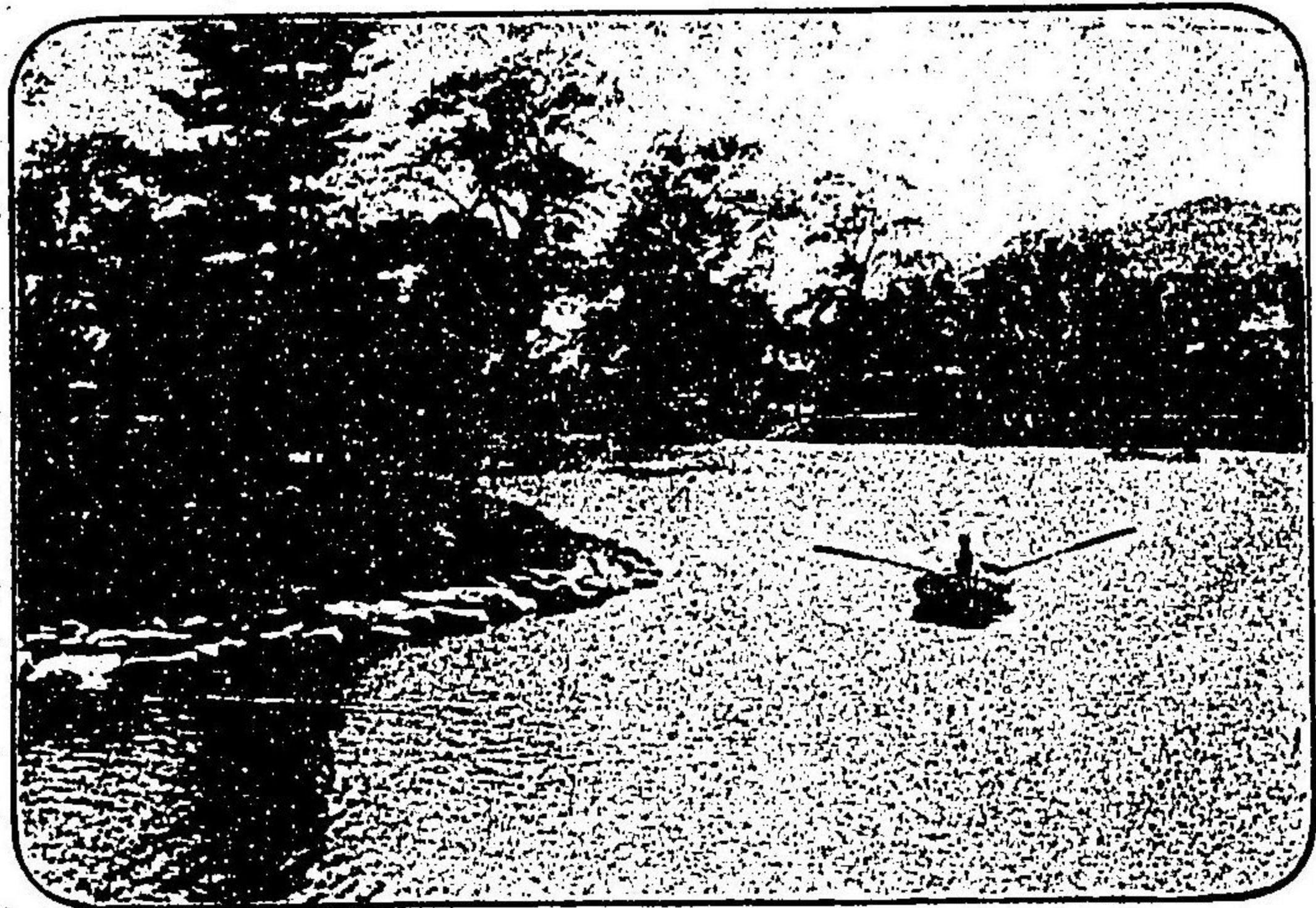


また名譽なる聯隊やな。

花鳥の色音をこめてほのくと
明けこそわたれ月寒のすと
天地の神もゆるさむものよふの
つゝの音にぞ夜は明けにける

河野犀川
平田素山

縁地



(一) 中島遊園地

◎**圓山公園** 圓山村札幌神社境内に在り、櫻樹百株、春季開花の候、香風十里、一帶の彩雲鑿鑿として、美観いふべからず、都人相競ふて花下半日の清遊を恣にするのみならず、小樽、岩見澤などより観櫻會を組織して來賓するさへあり。人此地を以て向島嵐山の勝に擬するも故なきに非ず、札幌神社の神々も、この時ばかりは無禮講を黙し給ふ。
櫻花咲き匂ふれば御社の
前とも知らで遊ぶ今日かな
平田素山

◎**中島遊園地** 札幌驛を距る二十町、本道第一の公園、南七條の南端、豊平川の分岐して二流となり、宛然島地を成すに似て、中島の名之より出づ、



(二) 中島遊園地

明治十四年設計をなし、二十年工を竣へしものにて、面積大凡十餘町歩、老樹鬱蒼として苔草地を蔽へり、池あり端艇を浮ぶべく、旗亭あり酒を酌むべし、物産陳列場に本道の物産を稱するも宜く、側なる岡田花園に四時折々の珍花奇草を愛づるも興あり。殊に陳列場庭内なる木材標本家屋は、本道産各種の木材を蒐め、寄木細工的に一家屋を建築したるもの、その西洋室壁面の下部には、各種小片の板を張り、一々之に名稱を記し、以て木質色澤等を選むに便す。趣向甚妙、尙、遊園地記念碑、忠魂碑、大迫將軍銅像等皆此境内に在り。

二川盤曲繞平坡。園内雙池漾碧波。風軟草長松
颯々。夏來倍覺晚涼多。 王 治 本
物産陳列場を奥へ入ること二三町。

◎**札幌忠魂碑** あり、元北七條西七丁目に在りて「屯田兵戦死招魂碑」と題し、西南の役屯田兵戦病死者の靈を祀りたるを、當區の有志相謀りて、更に日清日露の兩役が戦病死者の靈を合祀し、今の處に移せる也、此時共に碑面の題字を「忠魂碑」と改刻し、其例祭日を八月五六兩日と定む、當時の人出宛ら垣を造り、仕掛烟火甚だ興多し、而してその題字は、陸軍大將乃木希典伯の揮毫に係る。

其他記念碑としては開拓記念碑(大通西)山鼻兵村開設碑(山鼻)あり、紀念館としては、月寒戦捷紀



招魂社の昨



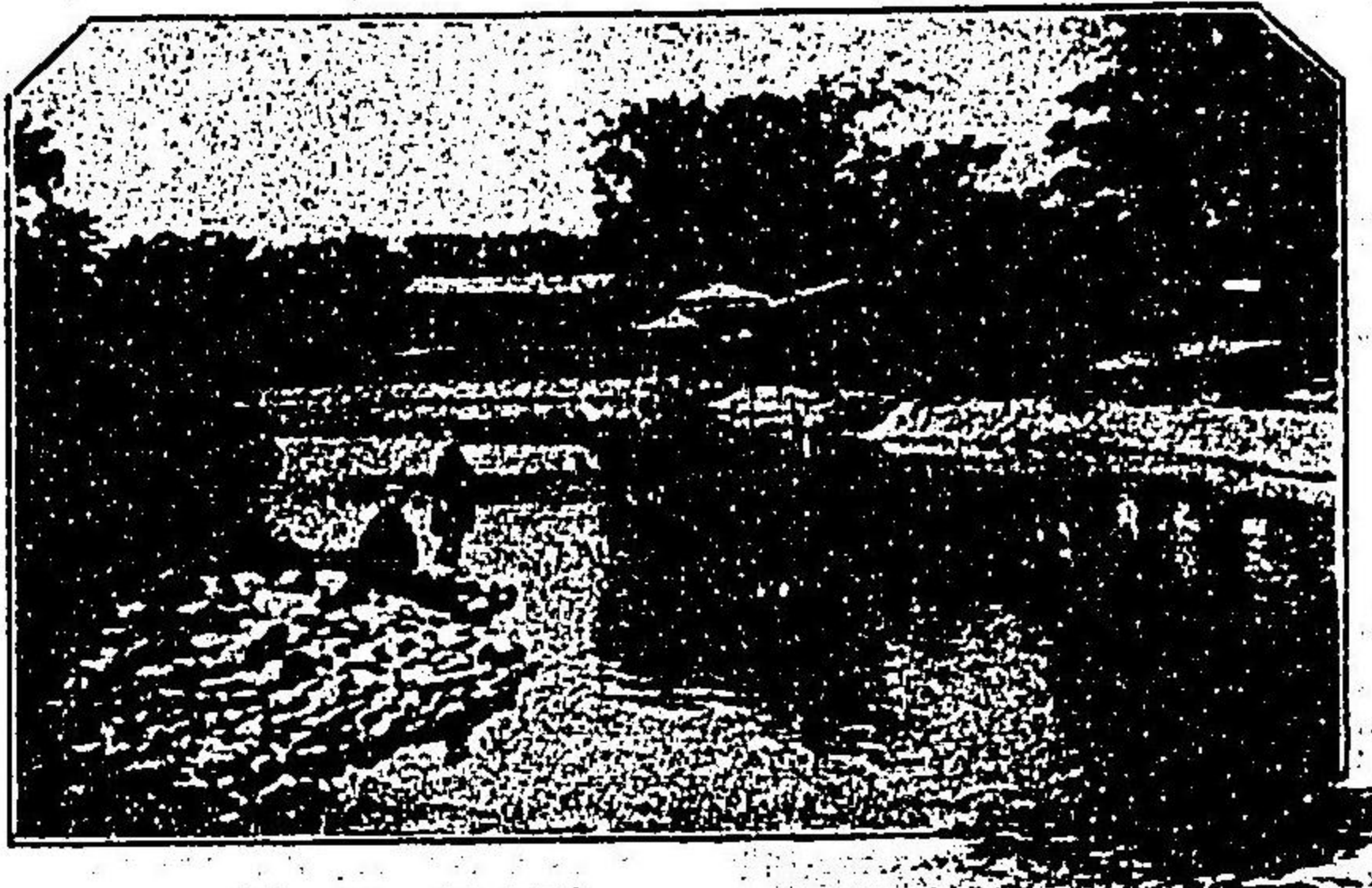
豊平館

は宴會場に恰適す、其西洋料理は獨特の技能ありと稱せらる、宮内省の所有にして今は當區に拜借の榮を得。

豊平館樹甚輝煌。奇草珍花繞畫廊。會憶當年留聖駕。屏風占得御鏡香。 王治本

念館(月寒)あり、豊平館(大道四)あり。

◎豊平館 是明治十三年の建設に係り、翌十四年八月、聖駕北巡の際、行在所に充たられしを以て、その名風に高し、壯麗なる二層樓にして、繞らすに鐵柵を以てし、構内の地域正に三千六百坪、林泉の風致悉く具はり、貴賓外人の宿泊、將た多數官民の公會若しく



岡田花園

◎花園 には中島遊園地内の岡田花園、北八條東一丁目なる東園最も名あり、共に園内清酒、頗る雅致に富み、四時常に千紫萬紅の妍を戦はす。殊に前者は藤、牡丹、芍薬、後者は花菖蒲、牡丹に其名を博せり。

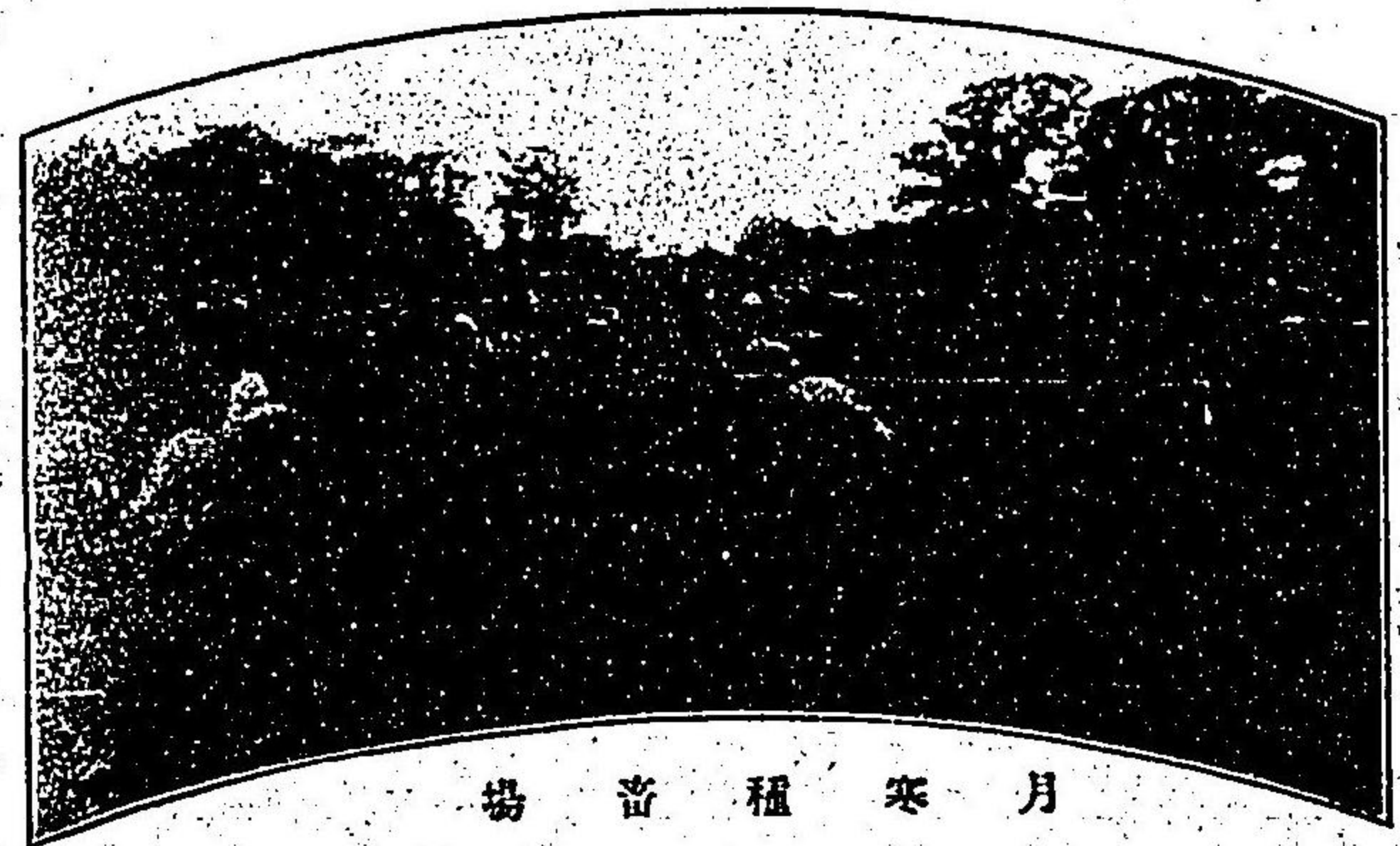
て四方を睥睨し、之と相對峙して立てるを永山

將軍銅像となす、同西三丁目に在り、前者は明治三十六年八月の建設、後者は四十二年十一月の設立たり、なほ、遊園地物産陳列場構内なる大迫將軍銅像は前にいへり、四十年四月除幕式を擧ぐ。

英傑蓋棺評始定。長髯豪骨儼威容。眼光炯々神如活。睥睨樺州水雪峰。

勝島仙坡





月寒種畜場
 札幌市街を距る東方二里、月寒聯隊を過ぐるこ
 と三十町にあり、
 札幌より室蘭に通
 する國道に沿ひ、
 車馬の交通頻繁を
 極む、面積一千八
 百町歩、頗る曠濶
 畜數三百有餘頭、
 バター、チーズの
 製造室等甚だ備は

れり。
 ◎眞駒内種畜場 札幌郡平岸、月寒の二箇村に跨り、札幌を距る南方二里、豊平川の畔に在り。東西南、の三面山を負ひ、眞駒内川其中央を串流す地勢一般に南より北に漸下し、極めて緩和なる波状を爲せり、地積實に二萬一千五百餘町歩、牛馬羊豚鶏、共に腴え、共に長せり、又、畜産製造試験としては、火腿製造、家畜肥肉及煉乳製



眞駒内種畜場

造につき、明治三十八年以來、其實施研究甚だ盡す。當區附近の勝地として、曳鉤を試むるもの、春秋最多し。

◎定山溪 當區を距る南西七里、豊平川の上流に在り、翠巒重疊の間、一條の溪流横はり、山紫水明罕に見るの仙境たり。その霜乘紅於二月花の時は、目に一丁字なき輩も、蓋、一句の詠なかるべからず、溫泉あり、少量の硫化物を含み、疝氣、腸胃病、脚氣、癩癩、婦人の諸病に効あり、四時浴客の絶えざるも理なり。此地に札幌水力電氣會社發電所のあるは前に言へるが如し。

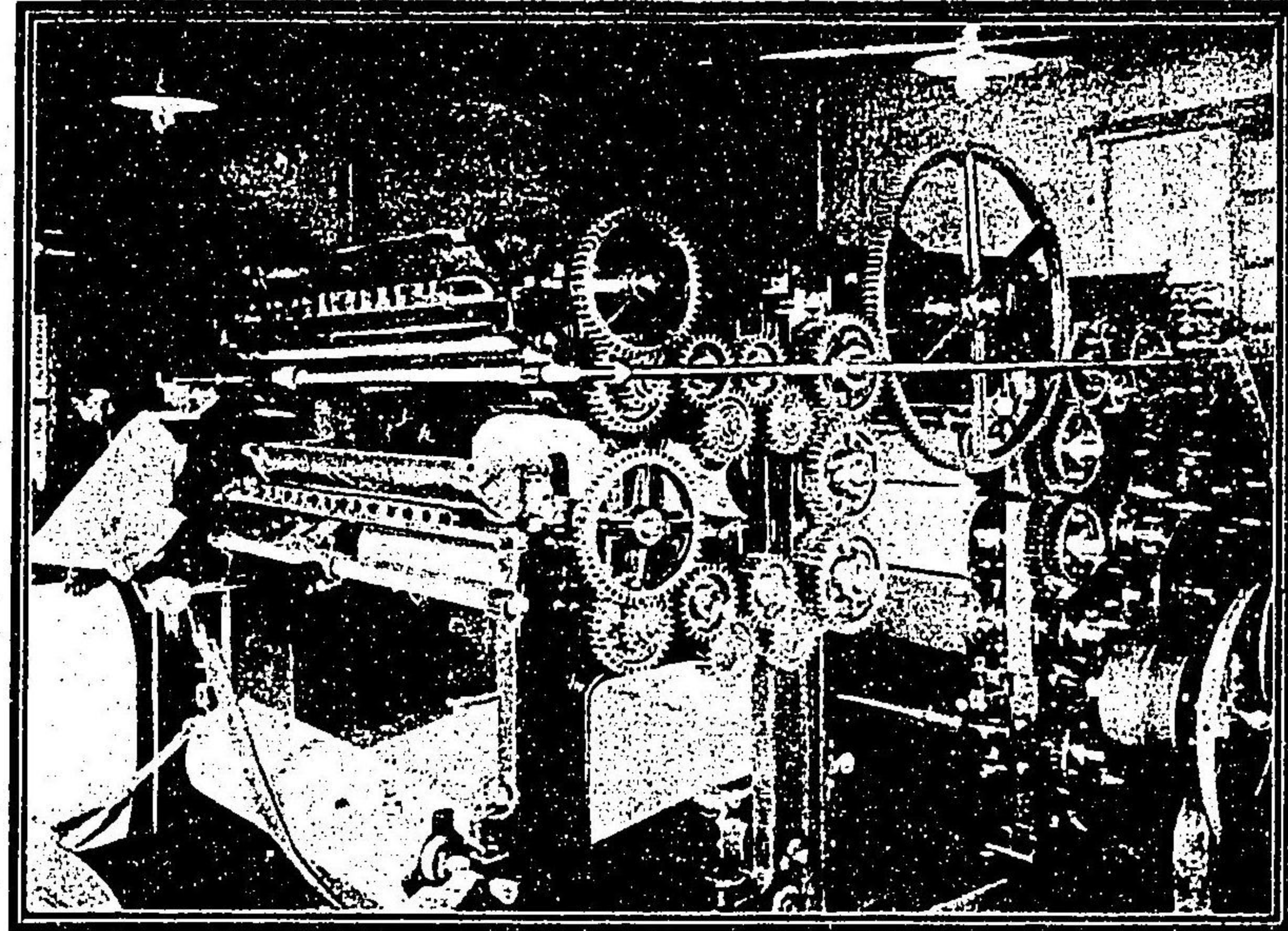
定山溪夜雨 (札幌八勝の一)
 世の塵を洗ふいでゆの山里は
 夜半の雨さへいと、静けき

河野犀川

現今の札幌終



機轉輪色一唯道海北



北海全道二百萬人中北海タイムスを見ざるもの一人もなし、故に廣告のキキメも亦無比、北海道に商品を買擴めんとする方は北海タイムスに廣告を出すは一番近道なり、見本紙入用の方は本社へ御申越次第送呈す。

北海タイムス

札幌大通西四丁目

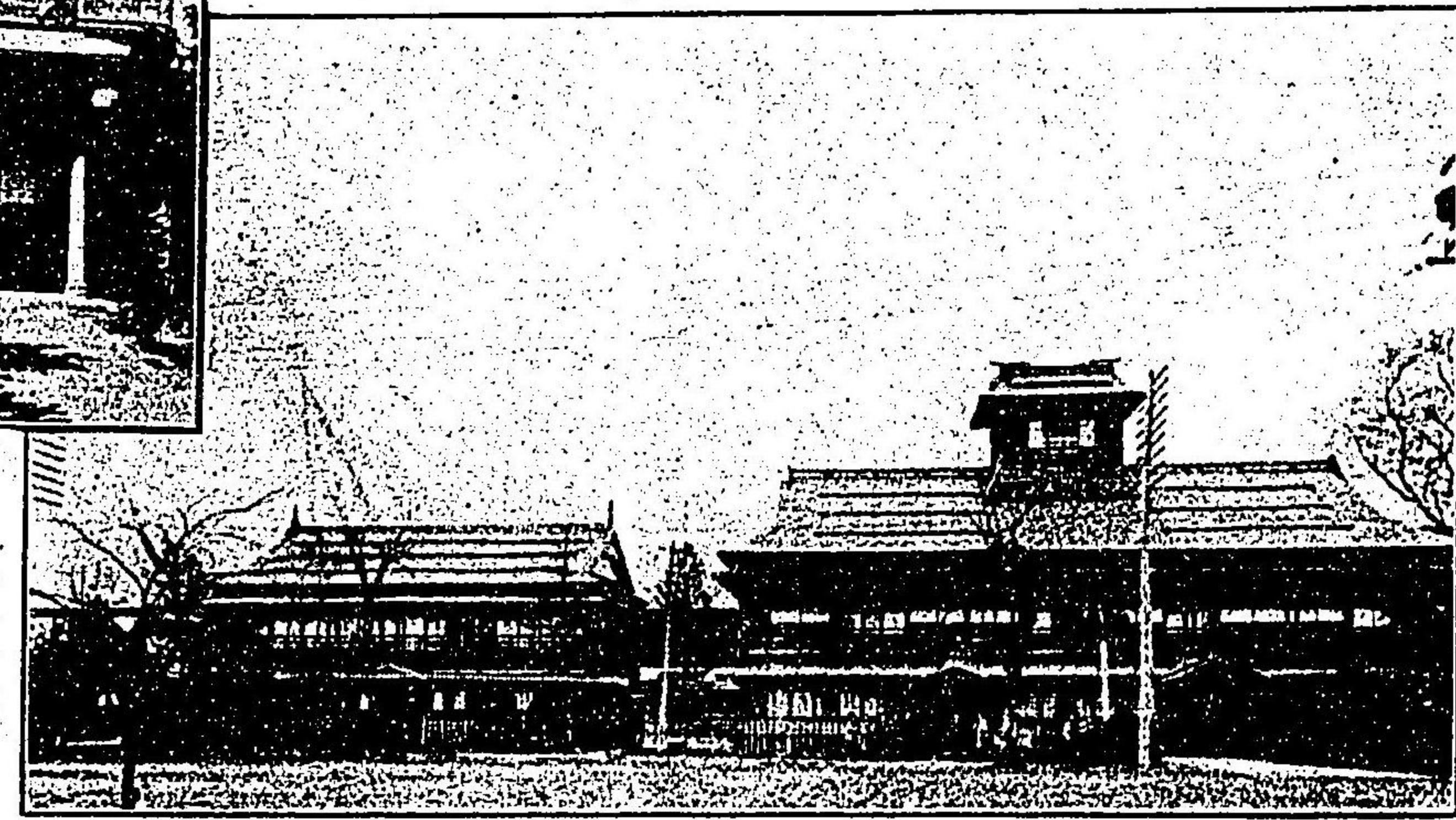
發行所 北海タイムス合資會社

出支 取局 所及
 銅岩帶室旭小大東
 路見廣蘭川樽阪京
 出出出出出出出
 所所所所所所所局局

誠以待小無大無



館別屋形山



(助敬竹大主館)屋形山館旅の幌札道海北

—(容 内 の 堂 貴 富)—

書籍

汽車の札幌に於ける毎に日々の新刊書籍、雑誌を載せ来りて店頭常に新らしく珍らし、顧客に向つて絶えず清新の趣味と快感を供するを信ず、本道來往の士札幌を訪はるゝの時富貴堂に駕を狂ぐるを忘れ給ふ勿れ

樂器

日本第一の山葉オルガンを始メ、○鈴木グランドピアノ ○マンドリン ○手風琴 ○ハーモニカ
其他各樂器の附屬品より預習書に至る迄豊富なる準備あり

文房具

大中小の各學校用を始め官廳、會社、銀行等あらゆる方面に用ふる實用向、裝飾向、頗るハイカラなる内外の文房具を陳列せり

運動具

冬期用としてはスケート、ビンゴンの類、融雪後は野外用ローンテニス、ベースボールに要する一式其他學校用球竿、啞鈴等悉く完備せり

歐米額面
名畫額面

比較的價廉にして印刷の妙を極む、お座敷用、書齋用として高尚優雅、各種商店の裝飾として亦妙、景色、動物、花卉、果物等千種萬種

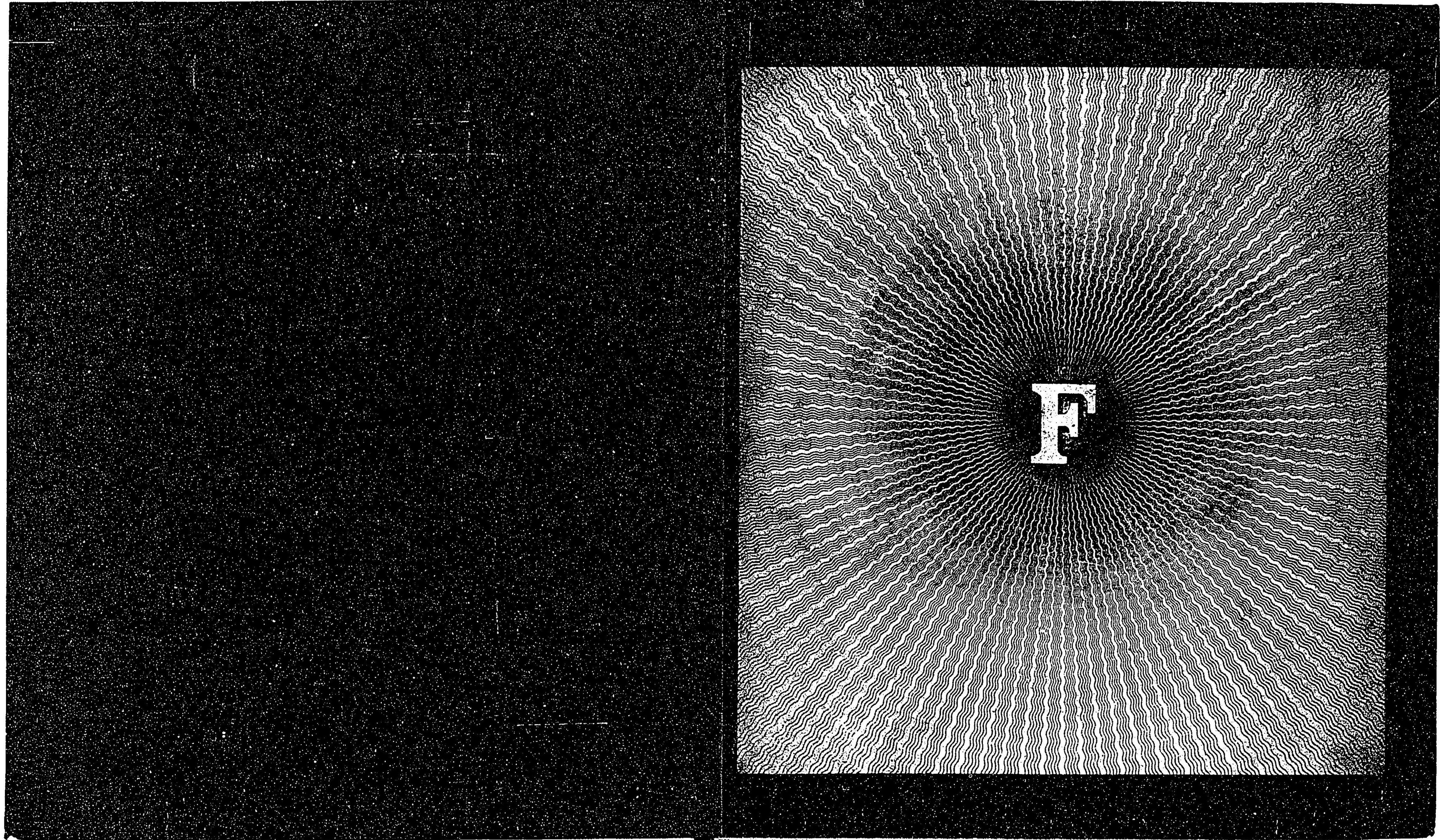
繪葉書

富貴堂は勿論況く全道各地の名勝繪はがきを網羅し續々新版發行を怠らず四季折なり、臨機應變、供給機敏

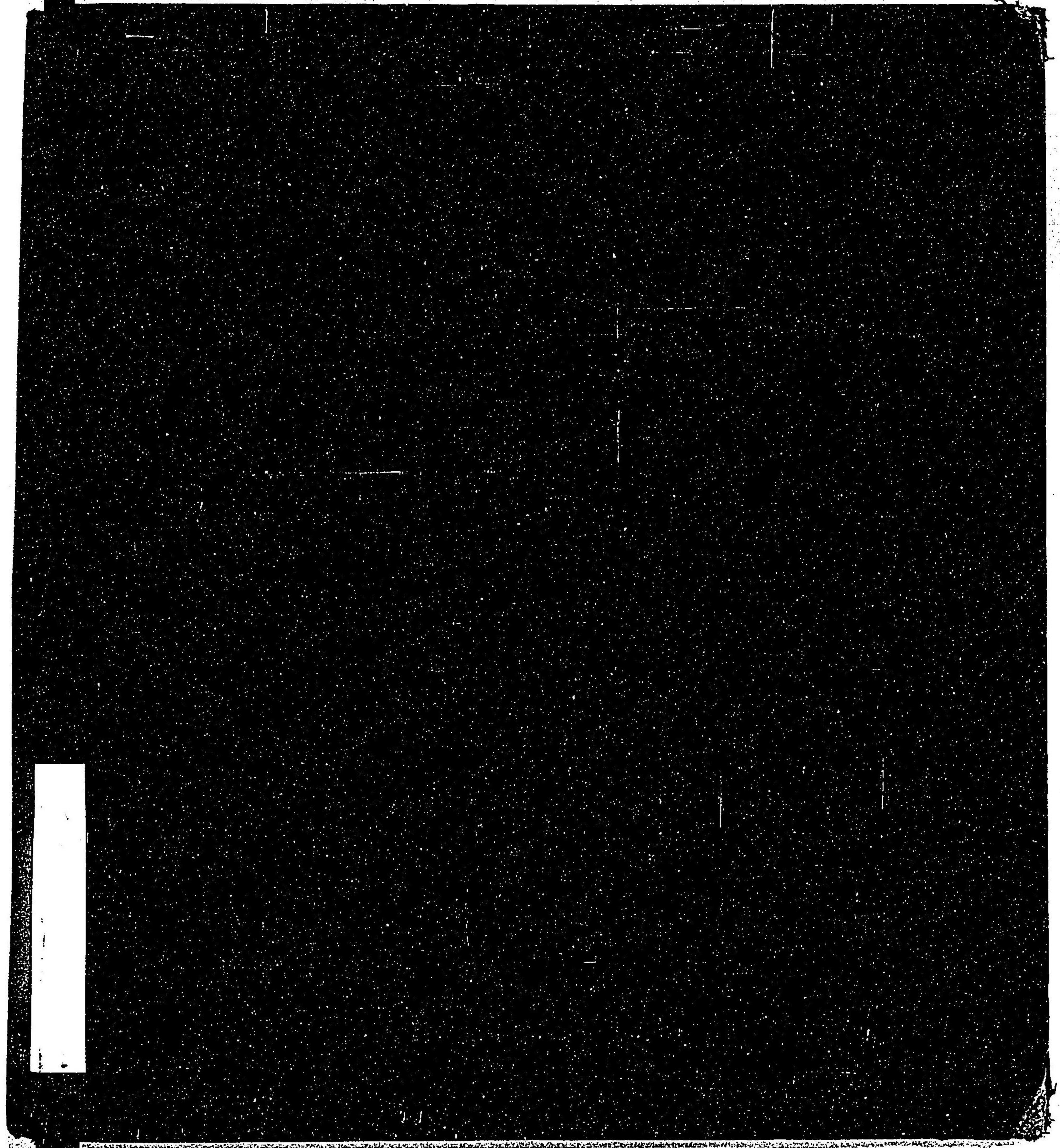
— 行 發 の 近 最 —

富貴堂編輯部編	富貴堂編輯部編	富貴堂編輯部編	石森和男先生作曲 田村虎藏先生作曲	大和田建樹先生作曲 田村虎藏先生作曲	札幌區役所編輯	札幌農科大學編纂	札幌農科大學文武會編	富貴堂編輯部編	富貴堂編輯部編	富貴堂編輯部編	富貴堂編輯部編
北海道みやげ	札幌みやげ	うつくしい札幌	我等が愛する北海道	北海道唱歌	札幌區全圖	東北帝農科大學一覽	東北帝農科大學	最新うつくしい札幌	札幌遊園地八景	現今の札幌	現今の札幌
郵定税價二貳拾錢	郵定税價貳拾五錢	郵定税價貳拾五錢	郵定税價貳參錢	郵南税北貳各六錢	郵定税價貳拾錢	郵定税價六貳拾五錢	郵正税價八六拾錢	郵定税價二十錢	郵定税價二十二錢	郵定税價四十三錢	郵定税價四十三錢

富 貴 堂 書 房



327
406



1

327

406

023189-000-5

327-406

現今の札幌

中村 信以 / 編

M43

ADC-0026

